

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
															(N)	(D)	(Q)	(R)	(L [%])																					
							Bg Vg bg					0 50 100			0 10 20 30 40 50																									
106				褐灰 アブライト 明褐灰 明緑灰 明褐灰																																				
									Eg Vg dg				●105.54~105.61m: 破砕部 シルト混じり砂礫状部 (Hj) 上端45°、下端45°でともに直線的に連続。径30mm以下の岩片主体で灰白色粘土が脈状に分布する。変質が著しく、オリブ灰色を呈する。 105.61~107.12m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、主に岩片状~礫状を呈する。																											
									Bg Vg				106.22~106.34m: 傾斜55°の割れ目が卓越し、割れ目には白色鉱物が晶出し、割れ目周辺に変質が見られる。																											
									Bg Vg				106.48~106.49m: 傾斜15°、傾斜50°の割れ目に幅3~6mmの暗緑灰色の粘土質砂を挟み、白色鉱物を伴う。																											
									cg				106.68~106.69m: 傾斜55°の割れ目に灰白色砂・細礫混じり粘土を挟む。 106.78~106.83m: 傾斜15°のドレイト脈を挟む。やや基質が粗粒で方解石の細脈が見られる。アブライトとの境界は明瞭である。アブライトよりは軟質である。高角度の割れ目にも貫入している。																											
									Dg Vg dg				106.78~106.80m: 傾斜50°のドレイトの変質部で、暗緑灰色の粘土質砂・細礫状を呈する。																											
									Bg Vg				106.91~106.92m: 不規則な形状のドレイト脈で、106.83mのドレイト脈と高角度割れ目の細脈で連続する。 107.12~107.29m: 傾斜45~90°の湾曲した割れ目が多く、角礫状を呈する。高角度の割れ目沿いに変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。																											
									cg				107.29~107.45m: 砂・細礫状を呈し、灰白色粘土脈が網目状に分布する。 107.30~107.31m: 傾斜55°で幅3~9mmの暗灰色変質部で砂状を呈する。 幅1mm以下の暗灰色粘土を不連続に挟む。変質部に含まれる岩片に定向配列は見られない。暗灰色粘土は分岐し、黄鉄鉱を伴う。																											
									Dg Vg				107.45~108.11m: 多方向の割れ目が多く、角礫状を呈する。割れ目沿いに緑色変質する。 107.81~108.11m: 高角度の割れ目沿いに変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。																											
									cg				108.29m: 傾斜57°で幅1~2mmの灰白色の方解石脈を挟む。 108.33~109.16m: 全体に変質を受け、緑灰~明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。																											
109							Iv				108.94m: 傾斜50°で幅0~8mmの方解石脈を挟む。																													
							Eg Vg dg				●109.16~109.46m: 破砕部 (D-1破砕部) 109.16~109.18m: 細礫混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜75°。明緑灰色を呈する。幅2~10mm。 109.18~109.30m: 粘土質礫状部 (Hb) 傾斜75°で直線的に連続。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。変質が著しく、明緑灰色を呈する。幅60mm。 109.30~109.32m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端75°、下端80°。明緑灰色を呈する。幅10~20mm。 109.32~109.46m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端90°でやや波打って、下端60°で湾曲して連続。下端には幅1mmの白色粘土を伴う。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。明緑灰色を呈する。幅60mm程度。 109.46~109.70m: 破砕部の下端側は変質を受け、にぶい橙色を呈する。 109.46~112.49m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。 109.84m: 傾斜70°で幅1mmの白色粘土を挟む。																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ ノット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
															(N 値 ~ 深度) 図																			
111			* * * * *	明褐灰							110.12~110.78m: 傾斜30~50°の割れ目が密集し、細礫状を呈する。	0 50 100																						
											Cg																					cg	2	
											Dg																					Vg	4	
											Cg																					bg	2	
112			* * * * *	アプライト							110.80m, 110.85m: 傾斜50°で幅0~1mmの方解石脈を挟む。	0 50 100																						
											Dg																						Vg	3
113			* * * * *	褐灰							111.78~111.86m: 傾斜45°程度の割れ目が密集し、細礫状を呈する。一部白色粘土が網状に分布する。	0 50 100																						
											Cg																							cg
114			* * * * *	アプライト							111.80m: 傾斜45°で幅4~6mmの暗灰色砂混じり粘土を挟む。	0 50 100																						
											Dg																					Vg	3	
											Bg																					IVg	bg	2
											Cg																					Vg	cg	3
114			* * * * *	アプライト							112.28~112.46m: 傾斜40~50°の割れ目が数mm~2cm間隔で密集し、変質する。	0 50 100																						
											Dg																							
114			* * * * *	アプライト							113.44~113.90m: 傾斜20~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。	0 50 100																						
											Cg																							
114			* * * * *	アプライト							113.52~113.82m: 全体に弱く変質する。	0 50 100																						
											Cg																							
114			* * * * *	アプライト							113.58m, 113.64m: 傾斜46°, 48°の割れ目に幅1mmで黄鉄鉱が晶出する。	0 50 100																						
											Cg																							
114			* * * * *	アプライト							114.42~114.65m: 傾斜75°で幅10~13mmの石英脈を挟む。	0 50 100																						
											Bg																							bg
114			* * * * *	アプライト							114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	0 50 100																						
											Bg																							
114			* * * * *	アプライト							114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	0 50 100																						
											Bg																							
114			* * * * *	アプライト							114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	0 50 100																						
											Bg																							
114			* * * * *	アプライト							114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	0 50 100																						
											Bg																							
114			* * * * *	アプライト							114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	0 50 100																						
											Bg																							
114			* * * * *	アプライト							114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	0 50 100																						
											Bg																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															0	10	20	30	40												50	
			* * * * *	ア プ ラ イ ト	褐 灰	Bg					115.24~115.52m: 割れ目が密集し、主に礫状を呈する。	0	CL'																			
						Cg						7																				100
						Vg						8																				100
116						IVg						9																				100
						Vg						10																				100
			Bg	IVg	β 2	117.00~117.30m: 径5~10mmの橙色のかり長石、淡緑灰色の長石の斑晶が目立つ。 117.37~117.58m: 割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。 117.48m: 傾斜45°、幅2~4mmで黄鉄鉱が晶出する。緑泥石、方解石を伴う。	10	100	CM'																							
117			Vg				11	100																								
			Bg	IVg	β 2	117.95~125.10m: 割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。	11	100	CL'																							
118			Vg				12	100																								
			Bg	IVg	β 2	118.83~118.92m: 主に細礫状を呈する。 119.32m: 傾斜20°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。	12	100	CL'																							
119			Vg				13	100																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)			
													(N 値 ~ 深度) 図																		
121				アプライト 褐灰		Bg			120.30~122.00m: 傾斜10~40°と60~80°の割れ目が交差し、径1~3cmに岩片化する。 120.50m: 傾斜72°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。																						
122									121.09~121.50m: 傾斜85~90°の割れ目に幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。																						
123									122.18~122.40m: 傾斜55~60°の割れ目沿いに一部軟質化する。白色化するが、変質粘土は伴わない。																						
124									122.82m: 傾斜55°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。割れ目の下端側が幅2cmで長さ1Dに軟質化する。 122.99m: 傾斜60°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。 123.39m: 傾斜70°で幅6~10mmの粘土混じり礫状部を挟むが、礫の回転や移動はしていない。下端側の傾斜70°の割れ目面には幅0.5mm以下の暗緑色粘土と黄鉄鉱が晶出する。また、傾斜70°の割れ目とほぼ直交する幅2.0mmの岩片状部が分布し、下端側の割れ目面の一部に幅0.5mm以下の暗緑色粘土と若干の黄鉄鉱が晶出する。 124.59~124.89m: 互いに直交する傾斜約45°の割れ目が分布し、径1~3cmの岩片状を呈する。脱色により白色化した低密着割れ目から分離・岩片化したものと推定される。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値 ~ 深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
																0	10	20	30	40												50
126			[柱状図: 褐色系土質]	褐灰	Vg	IVg	[割れ目: 不明]	[風化: 不明]	[変質: 不明]	[記号: 不明]	[コア採取率: 不明]	[最大コア長: 不明]	[R Q D: 不明]	CL'	[孔内水位: 不明]	[標準貫入試験: 不明]					[原位置試験: 不明]	[室内試験: 不明]	[掘進月日: 不明]	[掘進速度: 不明]	[孔径: 不明]	[コアチューブ: 不明]	[給圧: 不明]	[回転数: 不明]	[送水圧: 不明]	[送水量: 不明]	[排水量: 不明]	
127				[柱状図: 褐色系土質]	灰赤	Bg	cg	[割れ目: 不明]	[風化: 不明]	[変質: 不明]	[記号: 不明]	[コア採取率: 不明]	[最大コア長: 不明]	[R Q D: 不明]	CL'	[孔内水位: 不明]	[標準貫入試験: 不明]					[原位置試験: 不明]	[室内試験: 不明]	[掘進月日: 不明]	[掘進速度: 不明]	[孔径: 不明]	[コアチューブ: 不明]	[給圧: 不明]	[回転数: 不明]	[送水圧: 不明]	[送水量: 不明]	[排水量: 不明]
128			[柱状図: 褐色系土質]		灰褐	Vg	bg	[割れ目: 不明]	[風化: 不明]	[変質: 不明]	[記号: 不明]	[コア採取率: 不明]	[最大コア長: 不明]	[R Q D: 不明]	CL'	[孔内水位: 不明]	[標準貫入試験: 不明]					[原位置試験: 不明]	[室内試験: 不明]	[掘進月日: 不明]	[掘進速度: 不明]	[孔径: 不明]	[コアチューブ: 不明]	[給圧: 不明]	[回転数: 不明]	[送水圧: 不明]	[送水量: 不明]	[排水量: 不明]
129				アブライト	褐灰	Bg	[割れ目: 不明]	[風化: 不明]	[変質: 不明]	[記号: 不明]	[コア採取率: 不明]	[最大コア長: 不明]	[R Q D: 不明]	CL'	[孔内水位: 不明]	[標準貫入試験: 不明]					[原位置試験: 不明]	[室内試験: 不明]	[掘進月日: 不明]	[掘進速度: 不明]	[孔径: 不明]	[コアチューブ: 不明]	[給圧: 不明]	[回転数: 不明]	[送水圧: 不明]	[送水量: 不明]	[排水量: 不明]	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
														(N 値 ~ 深度) 図																	
131	85.57	131.00	[Pattern]	アブライト	褐灰	Bg Vg	cg β 2			130.16m: 傾斜35°の割れ目の一部が褐色に風化するが、劣化は伴わない。130.16m以深では、径2~3mmの長石の一部が白濁化する。 130.50~130.54m: 傾斜45°の割れ目沿いに暗緑色化する。粘土化はないが、幅1~3mmの石英脈を伴う。	0 50 100 5 (0) 100 CL'			0 10 20 30 40 50																	
				コア欠如	灰褐						131.00~132.00m: コア欠如																				
132	86.28	132.00	[Pattern]	アブライト	灰褐	Bg Vg	bg β 2			132.00~133.46m: 割れ目と低密着割れ目が1~3cm程度の間隔で密に分布し、径1~3cm程度に岩片化した部分を多く含む。変質と風化による劣化はないが、133.46mの傾斜10°の割れ目には幅1mm程度の暗緑色粘土を挟む。 132.00~132.65mと133.10~133.30mは、径1~2cmの岩片状を呈する。	0 50 100 3 (0) 100 CL'																				
133				コア欠如							133.57~134.00m: 割れ目沿いに長さ5mm前後の繊維状を呈する部分が多い。隙に粘土は付着しない。	0 50 100 5 (0) 100 CL'																			
134	87.69	134.00		コア欠如						134.00~135.00m: コア欠如	0 50 100 4 (0) 100 CL'																				
	88.40	135.00																													

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記	コ	ア	取	率	岩	級	区	分	標準貫入試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コア チップ ノズル	給 回 送 水 圧 (kN・ rpm MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
																		(N値~深度) 図																
136	88.75	135.50	[Pattern]	ア プ ラ イト	灰 褐	Bg Vg bg	β	2	135.00~135.50m: 傾斜10~30°の割れ目が1~2cm間隔で分布し、岩片状を呈する。割れ目に粘土付着や粘土脈の存在はない。	0	50	100	← (%)	最大コア長 cm	R Q D	L [%]	CL'	0	10	20	30	40	50											
									135.50~136.00m: コア欠如																									
	89.11	136.00	[Pattern]	ア プ ラ イト	灰 褐	Bg Vg bg	β	2	136.00~136.30m: 径1~2cm程度の岩片状を呈する。岩片に粘土は付着しない。	2	100	CL'	0	10	20	30	40	50																
									136.30~136.50m: スライムを多く含む。																									
89.46	136.50	[Pattern]	コ ア 欠 如						136.50~136.75m: コア欠如。部分的に粘土状のものを含む。	3	100																							
									136.75~137.08m: 径1~2cmの岩片からなる。																									
137	89.64	136.75	[Pattern]	ア プ ラ イト	灰 褐	Bg Vg bg	β	2	137.08~137.42m: 全体に緑泥石化により緑色を帯びている。概ね1~3cm間隔で傾斜10~30°の割れ目と、これと斜交する傾斜40~50°の割れ目が発達する。微小の葉状脈が露出する。上記の両割れ目系の交差部の一部や、137.67~137.73mの傾斜45~50°の割れ目沿いでは、径1cm前後の礫状を呈し、暗緑色粘土が付着する可能性があるが、礫の回転や移動は見られず、定向配列もしていない。	4	100	CL'	0	10	20	30	40	50																
									137.42~138.21m: 実質した割れ目密集部で原岩組織は認められる。割れ目には暗緑色鉱物が付着し、全体に緑色を帯びる。																									
138	89.80	137.25	[Pattern]	ア プ ラ イト	灰 褐	Bg Vg bg	β	4	138.21~138.42m: 実質した割れ目密集部で原岩組織は認められる。割れ目には暗緑色鉱物が付着し、全体に緑色を帯びる。	5	100	CL'	0	10	20	30	40	50																
									138.42~138.63m: 上位に比べて軟質化し硬さ「E」となり、細粒化する。脈状の粘土は伴わない。																									
139	89.96	137.00	[Pattern]	ア プ ラ イト	灰 褐	Bg Vg bg	β	2	138.42~140.04m: 傾斜50~60°と、これと斜交する30°程度の割れ目が発達する。	6	100	CL'	0	10	20	30	40	50																
									138.63~138.66m: 上下位に比べて軟質で硬さ「E」となり、緑色を帯び細粒化する。脈状の粘土は伴わない。																									
139	89.96	136.75	[Pattern]	ア プ ラ イト	灰 褐	Bg Vg bg	β	2	139.21~139.50m: 弱く変質し、割れ目沿いに緑色を帯びる。	7	100	CL'	0	10	20	30	40	50																
									139.50~139.50m: 弱く変質し、割れ目沿いに緑色を帯びる。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
													(N値~深度) 図																			
141			[Pattern]	灰褐		Bg	Vg	2	140.04~140.33m: 傾斜5~30°の微細な割れ目が発達する。一部硬質部が残存するが、上下位に比べてやや軟質である。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																			
142									Dg																						3	141.71~142.00m: 傾斜10~30°の割れ目が発達し、細片~細粒化する。岩芯の一部はやや硬質であるが、全体にやや軟質となる。
143									IVg																						β	142.00~142.48m: 上下位に比べて割れ目沿いの劣化は軽微であるが、割れ目沿いに細片化する。
143									Bg																							2
144				アプライト	赤灰	Vg	Bg	2	143.53~145.46m: 上位に比べて劣化は軽微であり、割れ目は少なくなる。割れ目沿いの細片化、細粒化も軽微となる。傾斜20~30°の割れ目が卓越する。	0 50 100	CM'		0 10 20 30 40 50																			
144			IVg						11																						145.46~145.46m: 割れ目沿いの劣化は軽微であり、割れ目は少なくなる。割れ目沿いの細片化、細粒化も軽微となる。傾斜20~30°の割れ目が卓越する。	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
														0	10	20	30	40												50										
			[Pattern: Small stars]	灰			IVg			145.46~146.17m: 上位に比べて割れ目が多くなり、割れ目沿いの細片化が見られる。145.70~145.90m間には微細な割れ目も見られるが、連続性に乏しい。	100	CM'																												
146							Vg			146.17~146.71m: 上位に比べて割れ目が少なくなり、割れ目沿いの劣化は軽微で、一部の割れ目沿いに細片化が見られる。	100	CL'																												
							IVg			146.71~147.13m: 上位に比べて割れ目が多く、微細な割れ目が亀甲状を呈する。	100	CM'																												
147							Bg			147.13m: 割れ目に暗緑色の熱水変質脈を伴い、割れ目周縁は暗緑色を呈する。下層割147.20m付近までが脱色し、硬さ「D」に軟質化する。この間、微細な割れ目が発達する。	100																													
							bg			β 2	147.13~149.30m: 赤色を帯びる。傾斜50~70°の割れ目が卓越し、微細な割れ目が発達し、亀甲状を呈する。割れ目沿いの細片化、細粒化が見られる。	100																												
148							[Pattern: Small stars]			赤灰			Vg	149.30~149.63m: 割れ目沿いの細片化、細粒化が見られ、一部やや硬質部が残存するが、上下位に比べて軟質である。	100	CL'																								
149			Cg	149.63~150.00m: 軽微な変質を受け、緑色を帯びる。上位に比べて硬質である。微細な割れ目が見られる。	100																																			
			Bg	149.80~149.85m: 傾斜40°、幅40mmで変質し、暗緑色の熱水変質脈を不規則に伴い、暗緑色を帯びる。上下位に比べて軟質で硬さ「D」となる。周囲の硬岩部との境界は明瞭である。	100																																			

孔番 B14-2孔

深度 0.00m ~ 18.00m

孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 36.00m ~ 54.00m

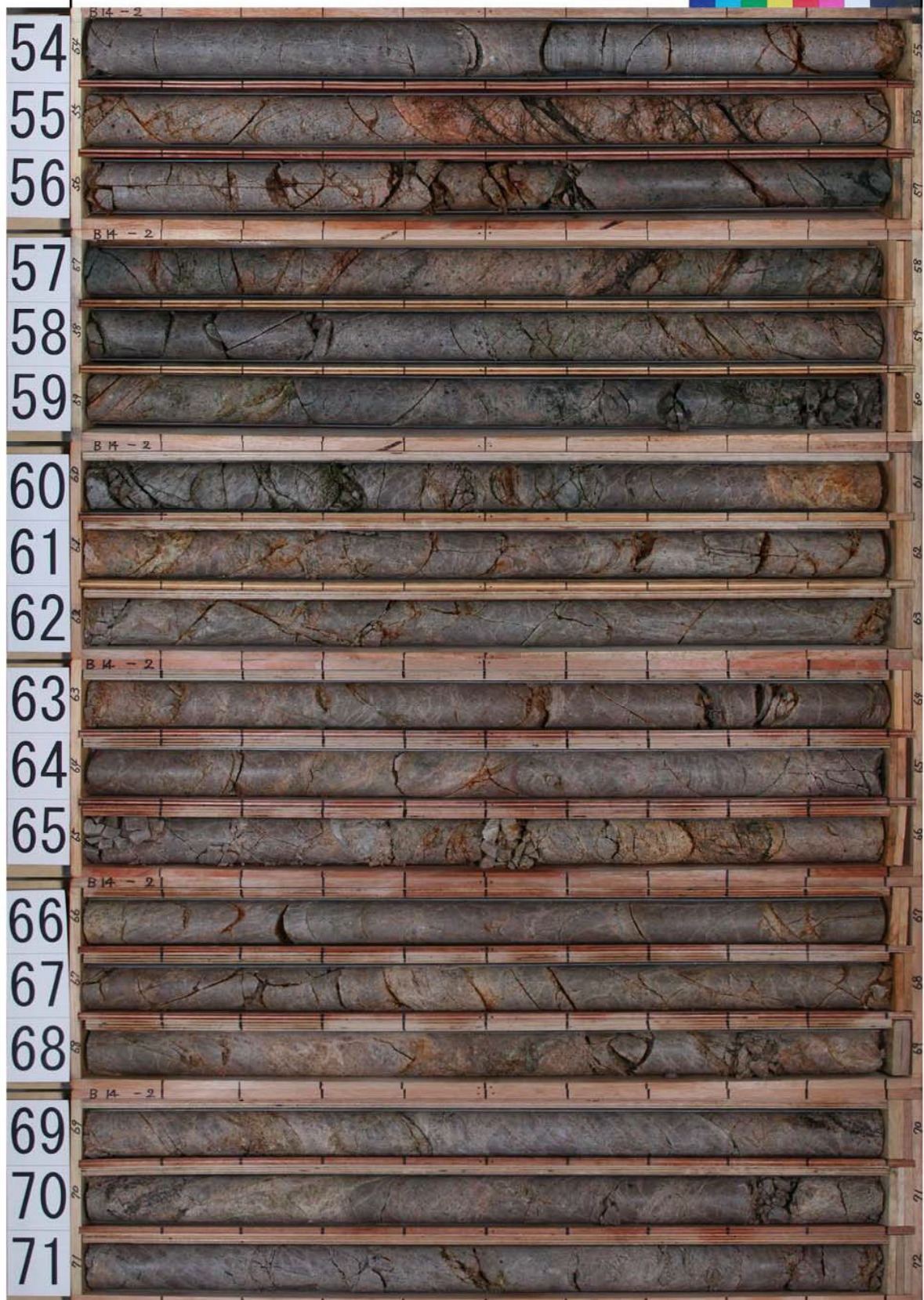
孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 54.00m ~ 72.00m

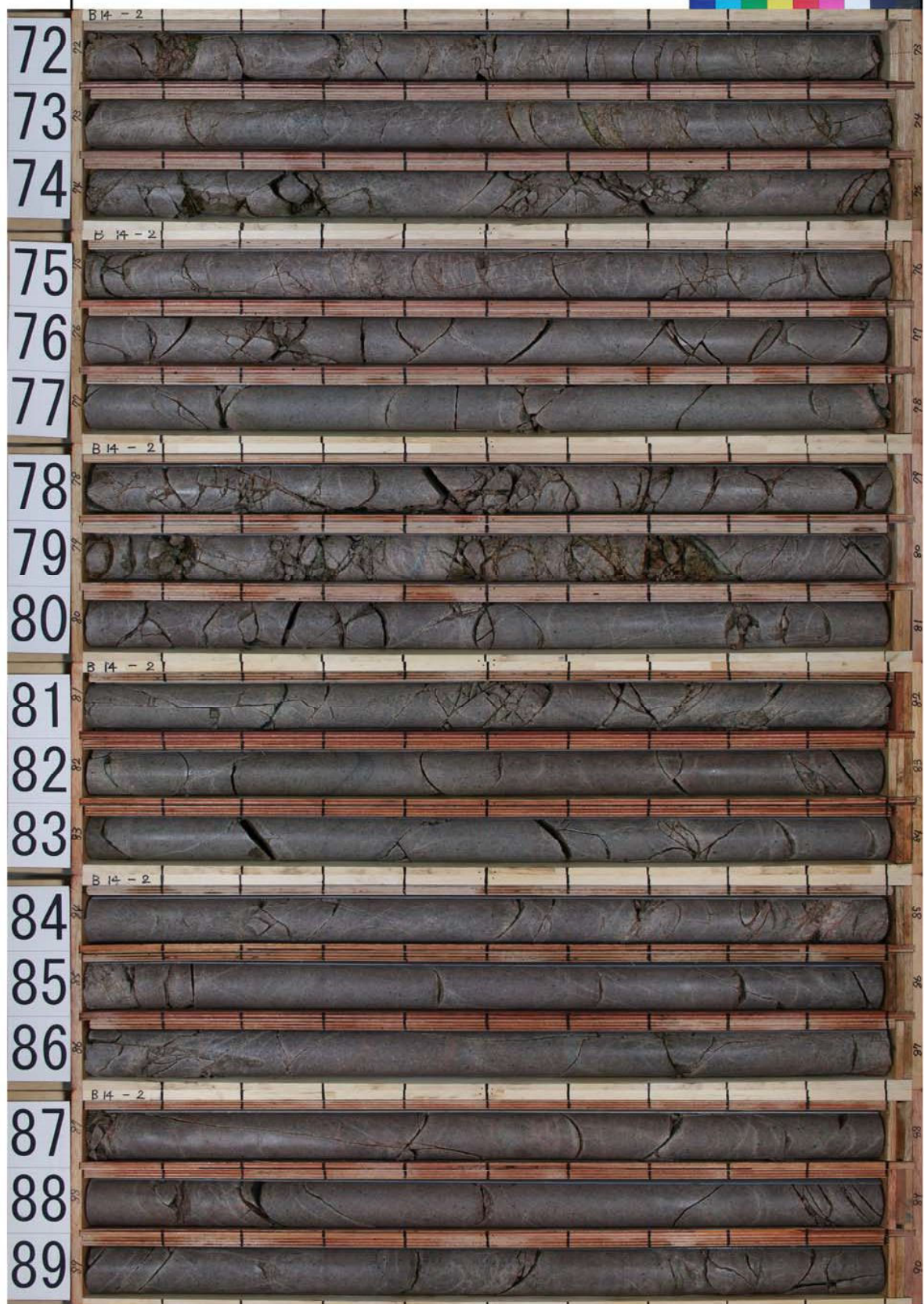
孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 72.00m ~ 90.00m

孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 90.00m ~ 108.00m

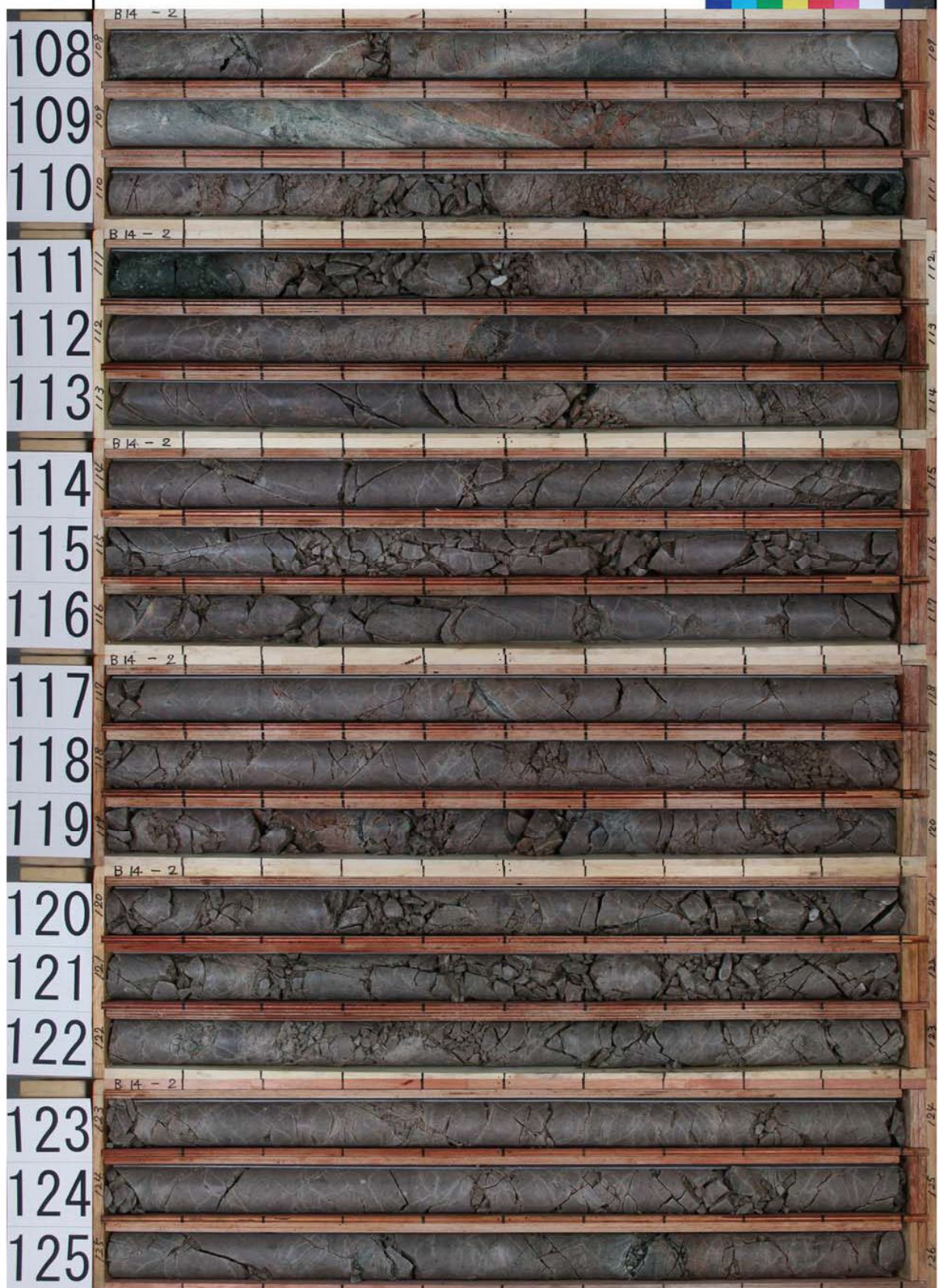
孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 108.00m ~ 126.00m

孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 126.00m ~ 144.00m

孔口標高 7.06m



孔番 B14-2 孔

深度 144.00m ~ 150.00m

孔口標高 7.06m



余白

H29—ReB14—2

余白

ボーリング柱状図

調査名 XXXXXXXXXX
 事業・工事名 XXXXXXXXXX

ボーリングNo.	1
----------	---

ボーリング名	H29-ReB14-2		調査位置	X : 352.635, Y : 943.011		北緯	35° 45' 15.40"		
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2018年 1月 18日 ~ 2018年 6月 12日		東経	136° 1' 5.69"	
調査業者名	XXXXXXXXXX			主任技師	XXXXXXXXXX		現代場人	コ鑑定者	
ボーリング責任者	XXXXXXXXXX								
孔口標高	7.07 m	角	180° 上	方	北 0° 西 270°	地盤勾配	鉛直 0.0°	使用機種	試験機
総掘削長	115.00 m	度	下 0°	向	東 90° 南 180°			ハンマー	ポンプ

標高 (m)	深度 (m)	柱状区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験				室内試験 (孔内水平軸電)	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	送水量 (L/分)	送水圧 (MPa)	回転数 (rpm)	給圧 (kN/MPa)	送水量 (L/分)
												N値	Q値	R値	L値								
7.04	0.04	表土	明黄褐									0	0	0	0	0	1/24	0	0.0	0	0	0	
		盛土	灰									84	0.2	8	1/25	84	0.2	泥水 5	0.1	180	0	0	
		礫質砂	黄灰									68	0.1	4	1/25	68	0.1	泥水 5	0.1	180	0	0	
		有機物混じり礫質砂	黄灰									80	0.1	2	1/25	80	0.1	泥水 3	0.1	180	0	0	
		砂礫	灰									260			1/27	260		無水 0	0.0	180	0	0	
		砂礫	黄灰									300			1/27	300		無水 0	0.0	180	0	0	
		砂礫	灰									320			1/29	320		泥水 10	0.3	180	0	0	
		砂礫	黄灰									400			1/29	400		泥水 10	0.3	180	0	0	
		砂礫	灰									300			1/29	300		泥水 10	0.3	180	0	0	
		砂礫	黄灰									360			1/29	360		泥水 10	0.3	180	0	0	
		砂礫	灰									300			1/30	300		泥水 4	0.2	180	0	0	
		砂礫	黄灰									105			1/30	105		泥水 3	0.2	180	0	0	
		砂礫	灰									93			1/30	93		泥水 3	0.2	180	0	0	
		砂礫	黄灰									98			1/31	98		泥水 4	0.2	180	0	0	
		砂礫	灰									80			1/31	80		泥水 4	0.2	180	0	0	
		砂礫	黄灰									112			2/1	112		泥水 5	0.2	180	0	0	
		砂礫	灰									73			2/1	73		泥水 5	0.2	180	0	0	
		砂礫	黄灰									81			2/1	81		泥水 5	0.2	180	0	0	
		砂礫	灰									66			2/1	66		泥水 5	0.2	180	0	0	

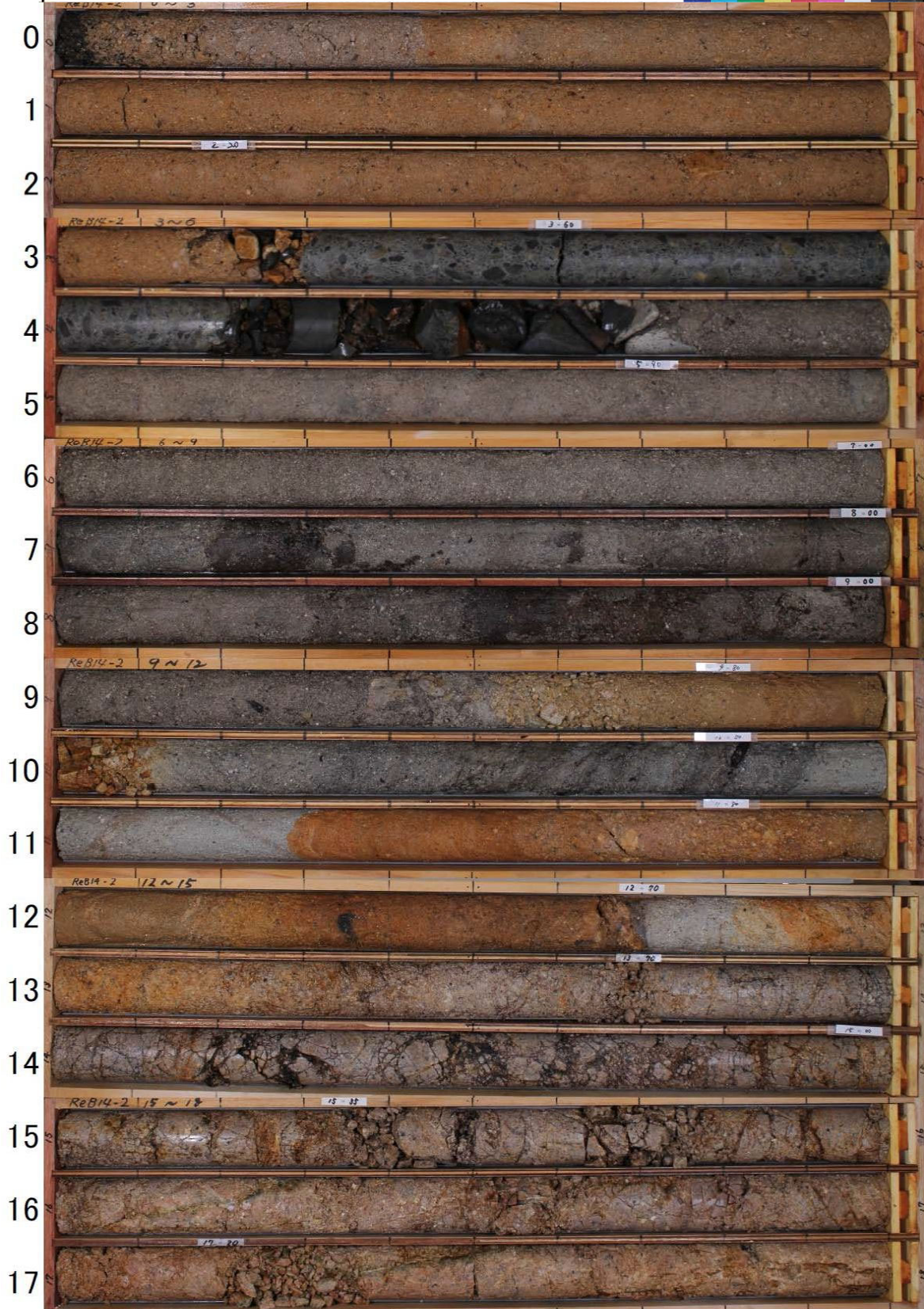
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q C D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
														N	値																		
		26			灰褐色	Eg	Vg	dg	2	25.66~25.76m: 淡黄色を呈する変質部で、硬質粘土状を呈する。上端55°、下端30~45°で凹凸する。 25.76~26.00m: 低角度及び高角度割れ目が発達しているが、原岩組織は残る。 ●26.00~26.20m: 破砕部 26.00~26.01m: 傾斜55°、幅5~8mm程度のにぶい黄褐色粘土と幅1mm程度の褐色粘土を挟む(Hc-1)。軟質。一部を除き直線的である。 26.01~26.20m: にぶい黄褐色を呈する粘土混じり礫状部(Hj)。原岩組織は一部残留し、やや軟質。 26.86~27.11m: 割れ目が発達し、細片状コアからなる。 27.40~27.62m: 割れ目が発達し、細片状コアからなる。 27.69~27.72m: 傾斜45°で幅3~5mm程度の軟質淡黄色粘土を挟む。 29.33~30.60m: 高角度割れ目が発達する。													2/1	66						0.2	泥水	4	
		27			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	3											2/5	90						0.2	泥水	3				
		28			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	1					
		29			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	3																	0.1	泥水	0					
		30			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		31			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		32			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	3					
		33			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		34			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	3																	0.2	泥水	0					
		35			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		36			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		37			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		38			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		39			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		40			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		41			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		42			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		43			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		44			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		45			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		46			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		47			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		48			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		49			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		50			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		51			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		52			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		53			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		54			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		55			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		56			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		57			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		58			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					
		59			にぶい黄褐色	Dg	Vg	cg	2																	0.2	泥水	0					

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
													(N)	(m)													
61			花崗斑岩	灰オリブ	IVg	bg	β	3	60.21~60.25m: 緑色に変質し、やや軟質である。下端に幅0.5~4mm程度の暗灰色粘土を伴う。		CL'	4	0					89									
62				Bg	IVg	bg		2				5	10														
63				Bg	IVg	bg		2				6	20														
64	37.92	63.62		Bg	IVg	bg		2	63.45m: 傾斜85°で幅1mm以下の石英脈を挟む。			7	30														
65				Bg	IVg	bg		3	63.62~115.00m: アブライト径1~5mm程度の石英、長石、黒雲母の斑晶を少量含む。			8	40														
66				Bg	IVg	bg		2	63.62~63.64m: 幅15mm程度で灰白色粘土混じり細粒状を呈する。上端50°、下端55°。やや軟質。			9	50														
67				Bg	IVg	bg		3	63.75~63.81m: 灰白色粘土混じり細粒状を呈する。境界不明瞭。やや軟質。			10	60														
68				Bg	IVg	bg		3	63.86~63.98m: 黄灰色粘土混じり粒状を呈する。上端35~40°、下端は不明瞭。やや硬質。原岩組織は残留する。			11	70														
69				Bg	IVg	bg		2	64.10~65.20m: 変質し、所々、灰白色粘土が網目状に分布する。やや硬質。			12	80														
70				Bg	IVg	bg		3	65.00~65.01m: 幅10mm以下の隙混じり灰白色粘土を挟む。軟質。			13	90														
71				Bg	IVg	bg		3	66.02~66.06m: 細片状を呈するが、原岩組織は明瞭に認められる。やや硬質。			14	100														
72				Bg	IVg	bg		2	66.20~66.51m: 灰白色粘土混じり細片状を呈する。境界不明瞭。軟質。			15	110														
73				Bg	IVg	bg		2	66.92~66.96m, 67.37m: 傾斜30~45°程度でマンガン汚染濃染部を伴う。			16	120														
74				Bg	IVg	bg		2	67.87~67.95m: 細片状を呈する。下端に傾斜60°で幅4mm以下の軟質な灰白色粘土を不連続に伴う。			17	130														
75				Bg	IVg	bg		3	69.22~69.28m: 細片状を呈するが原岩組織は明瞭に認められる。			18	140														
76				Bg	IVg	bg		2	70.86~75.74m: 所々、割れ目が発達し、灰白色粘土が網目状に分布する。原岩組織は明瞭に認められる。			19	150														
77				Bg	IVg	bg		2	75.50m: 傾斜60°で幅2mmの石英脈を挟む。			20	160														
78				Bg	IVg	bg		2	76.36~78.11m: 全体に緑色を帯びる。			21	170														
79				Bg	IVg	bg		3	77.95~78.02m: 緑灰色粘土混じり細片状を呈する。上端50°、下端40°。やや硬質。原岩組織は残留する。			22	180														
80				Bg	IVg	bg		β	78.50~99.21m: 全体に割れ目が少なく、柱状コアからなる。			23	190														
81				Bg	IVg	bg		β	80.06~81.50m: 傾斜65~70°で幅1~5mm程度の石英脈を5条挟む。			24	200														
82				Bg	IVg	bg		β				25	210														
83				Bg	IVg	bg		β				26	220														
84				Bg	IVg	bg		β	82.91m: 傾斜60°で幅2~3mmの石英脈を挟む。			27	230														
85				Bg	IVg	bg		β	83.00m: 傾斜35°で幅2~8mm程度の細粒混じり暗灰色粘土を挟む。軟質。			28	240														
86				Bg	IVg	bg		β	83.70~84.14m: 傾斜20~55°で幅1~7mm程度の石英脈を4条挟む。			29	250														
87				Bg	IVg	bg		β	85.27~85.32m: 細片状を呈する。上端側には灰白色粘土を伴う。上端40°、下端35°。やや硬質。			30	260														
88				Bg	IVg	bg		β	87.02m: 傾斜40°で幅1mm以下の石英脈を挟む。			31	270														
89				Bg	IVg	bg		β	88.46~89.04m: 局所的に傾斜30~50°程度の割れ目が密集する。			32	280														
90				Bg	IVg	bg		β	89.56m: 傾斜43°で幅3~5mm程度の砂~細粒混じり暗緑灰色粘土を挟む。軟質。			33	290														
91				Bg	IVg	bg		β	90.09m, 90.12m: 傾斜65°で幅1~3mmの石英脈を挟む。その間は赤色化を呈する。			34	300														
92				Bg	IVg	bg		β	90.51m: 傾斜35°の割れ目に沿って幅2~5mm程度で緑色化している。			35	310														
93				Bg	IVg	bg		β	92.83~93.14m: 細片状を呈する。上端63°、下端65°。上端には幅1~2mm程度の軟質暗緑灰色粘土を伴う。			36	320														
94				Bg	IVg	bg		β				37	330														

標尺	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図			原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
															N	値	図																					
96							IIIg	bg			95.44m: 傾斜40° で幅7mm以下の軟質な暗緑灰色粘土を不連続に挟む。95.74~96.07m: 石英脈を挟む。上端70°, 下端55°。境界面はゆるしている。	0				0	10	20	30	40	50																	
97							IIIg	ag			96.90~97.08m: 石英脈を挟む。上端65°, 下端は不規則な境界。境界面はゆるしている。	12	CH'																									
98							IIIg	u																														
99							IIIg	ag																														
100							Cg	Vg		2	99.21~100.23m: 網目状の割れ目が発達する。 ●99.41~99.45m: 破砕部 灰白色粘土混じり礫状部 (Hb)。上端35°, 下端40°。やや硬質。網目状に粘土が分布する。幅3cm程度。 100.23~100.76m: 傾斜45° 程度のゆる割れ目が発達する。	5	CL'																									
101							Cg	Vg			101.32~101.49m: 傾斜40° 程度の割れ目が発達し、所々、暗緑灰色粘土を伴う。	8	CH'																									
102							IIIg	bg			102.12~102.15m: 細片状で、変質により赤褐色化を呈する。上端・下端とも50°。	10																										
103							IIIg	bg			102.68~105.26m: 全体に網目状の割れ目が発達する。	14																										
104							Cg	Vg		2	104.21~104.23m: 傾斜50° で幅1~20mmの細礫混じり灰白色粘土を挟む。やや軟質。	8	CL'																									
105							Cg	Vg		4	●105.26~105.50m: 破砕部 105.26~105.32m: 灰白色粘土混じり細片状部 (Hj)。上端・下端とも50°。やや硬質。	9																										
106							Cg	Vg		3	105.32~105.37m: 細礫混じり灰白色粘土状部 (Hb)。下端57°。幅3cm程度。やや軟質。下端に幅3mm程度の軟質な赤灰色粘土を伴う (Hc-1)。	14	CM'																									
107							Bg	IVg		2	105.37~105.50m: 灰白色粘土混じり細片状部 (Hj)。下端55° であるが不明瞭。やや軟質。下端に幅1mm程度の軟質な赤灰色粘土を伴う。	7	CM'																									
108							Cg	Vg			105.83m: 傾斜45° で幅1~3mmの赤褐色鉱物脈を挟む。	9																										
109							Bg	IVg		2	105.69~106.44m: 傾斜30~65°, 幅1~15mm程度の方解石脈を数条挟む。	11																										
110							Cg	Vg		2	108.32~108.40m: 変質し、灰白色粘土を挟む。上端45°, 下端40°。やや軟質。	6																										
111							Bg	bg		3	109.38m: 傾斜50°, 幅1~3mm程度の暗緑~暗緑灰色シルト~粘土を挟む。割れ目沿いに幅10mm程度で緑色変質している。	5	CL'																									
112							Cg	Vg		3	110.51~110.72m: ドレライト脈を挟む。境界は凹凸が顕著で、ゆるしている。	10																										
113							Bg	IVg		2	111.06~113.48m: 全体に網目状の割れ目が発達する。	17																										
114							Bg	IVg		2	111.25~111.60m: 不規則な形状で変質し、局所的に粘土混じり礫状を呈する。原岩組織は残留する。 111.52m: 傾斜30° で幅5mm程度の緑灰色粘土を挟む。 113.29m: 傾斜45° で幅1~2mmの石英脈を挟む。 113.48~113.54m: 灰白色粘土混じり礫状を呈する。上端35°, 下端50°。やや軟質。下端に幅1~3mm程度の暗灰色粘土を伴う。	8	CM'																									

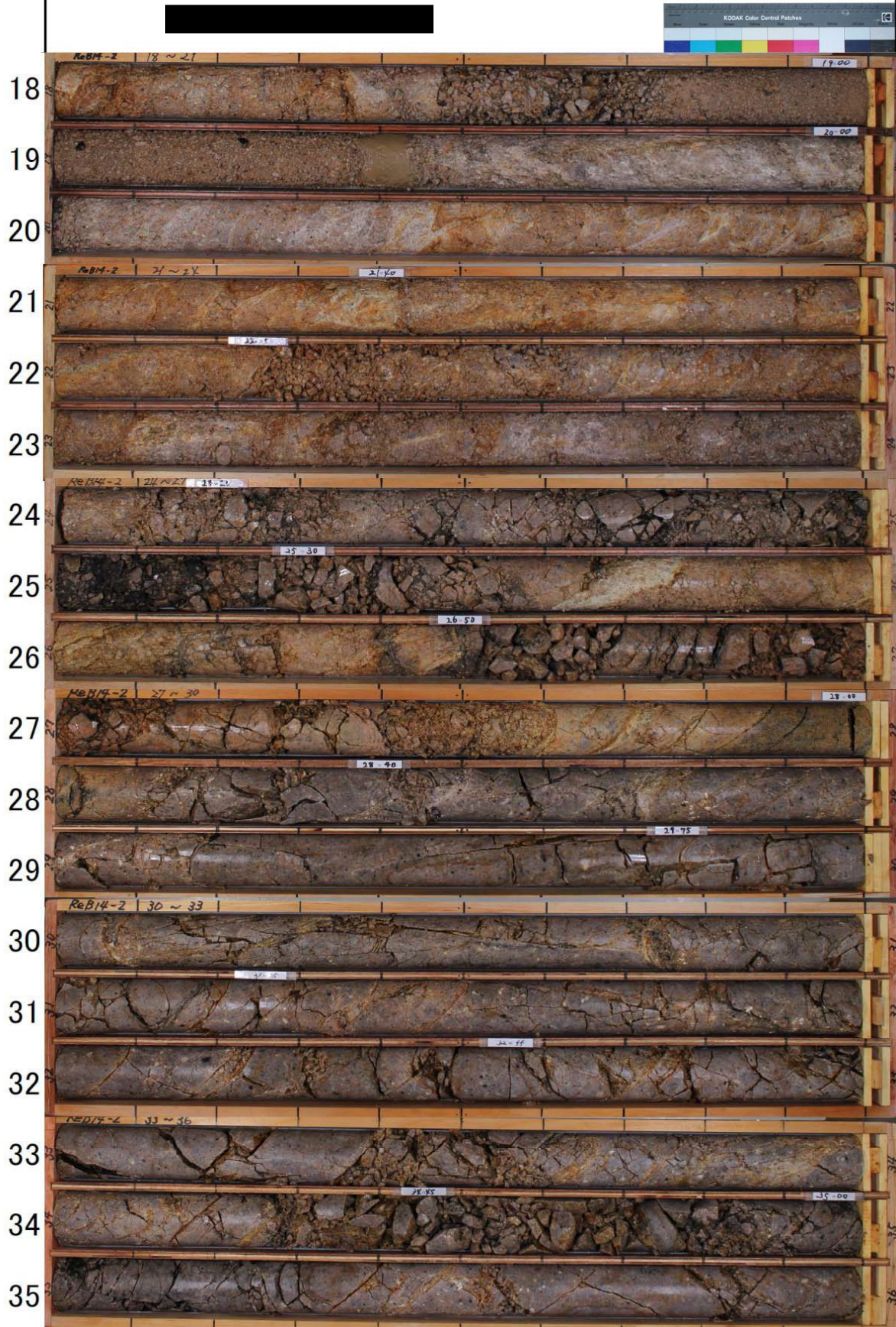
孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 0.00m ~ 18.00m



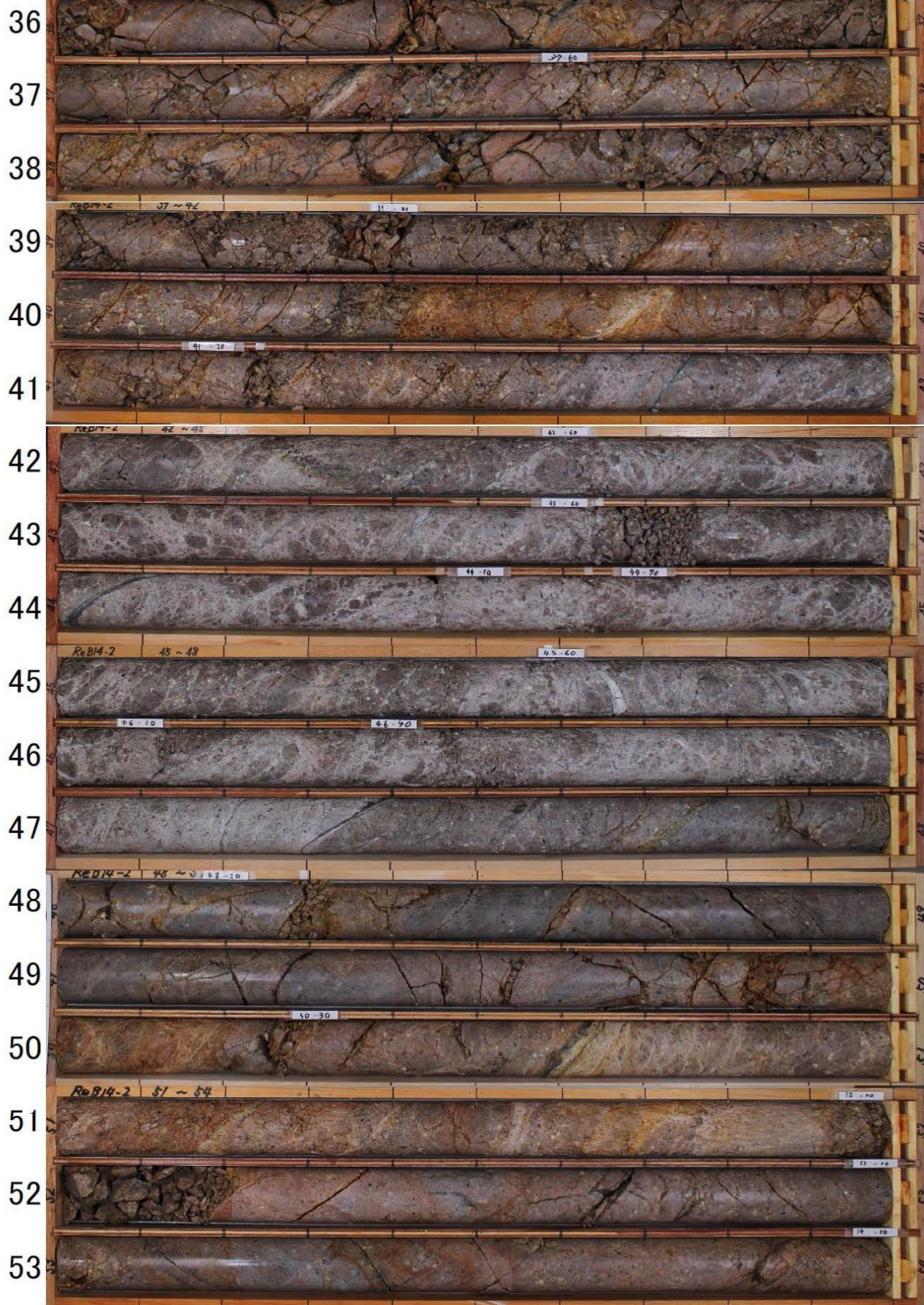
孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 18.00m ~ 36.00m



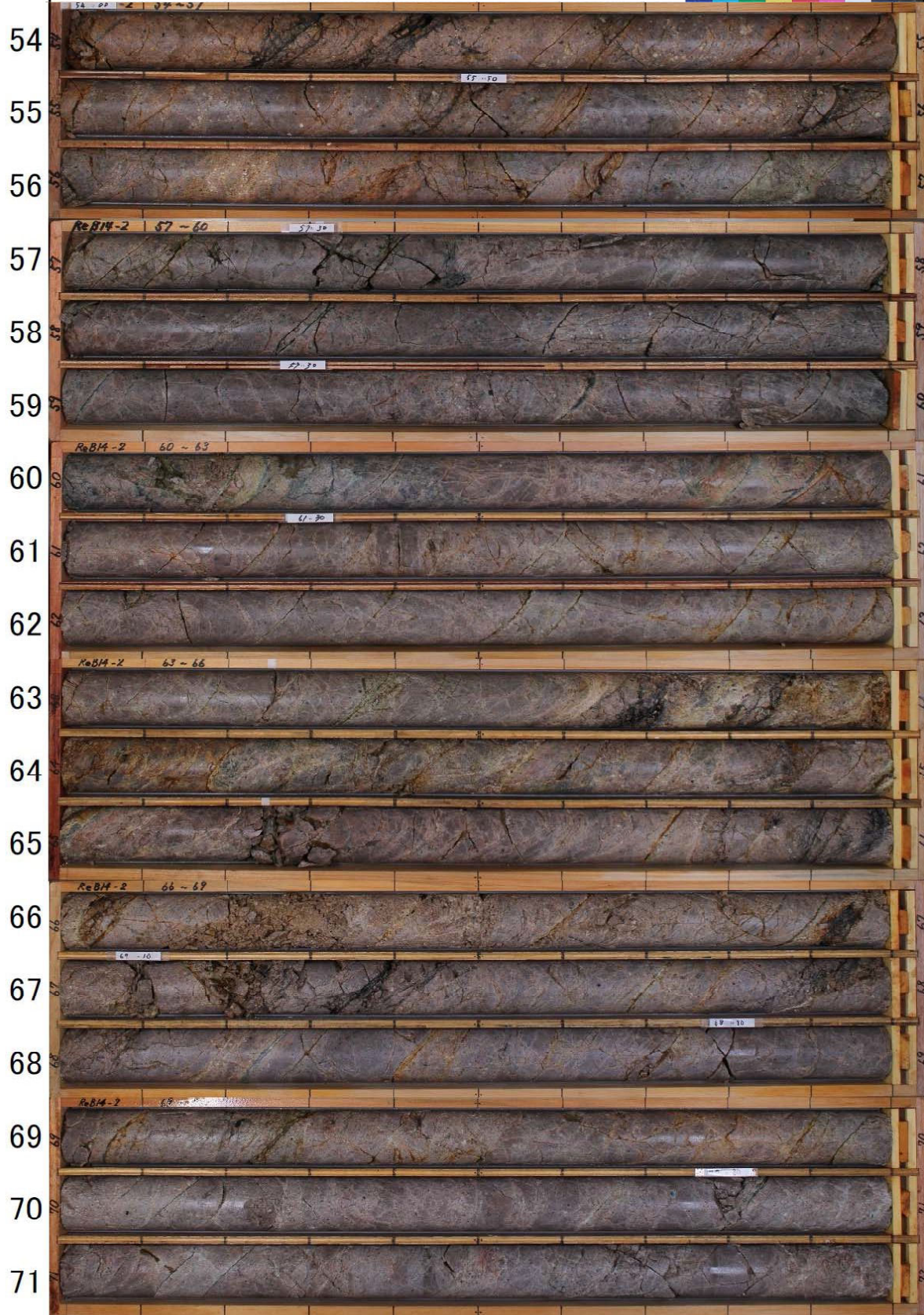
孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 36.00m ~ 54.00m



孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 54.00m ~ 72.00m



孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 72.00m ~ 90.00m



孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 90.00m ~ 108.00m



孔番 : H29-ReB14-2

深度 : 108.00m ~ 115.00m

108

109

110

111

112

113

114



余白

H24-B14-1

余白

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験	(N 値 ~ 深度) 図	原位試験 (孔内水平膨脹)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																
6			+ +	灰白			Dg Vg	γ	δ	2	5.05~5.73m: 風化の程度が弱く、岩片状コアを主体とする。 5.05~5.43m: 傾斜45~60°の割れ目が1~8cm間隔で発達し、白色物質をフィルム状に挟む。	0	CL'								140 / ケーシング																																						
7			+ +	明褐灰			VIg dg	γ	2	5.73~5.87m: 風化により軟質化し、砂礫状を呈する。 5.87~6.51m: 風化の程度はやや弱い。傾斜30~45°の割れ目の他、微細な割れ目が発達し、岩片状コアを主体とする。 6.00~6.51m: 割れ目面はマンガン鉱染で褐~黒色に変色する。 6.35~6.37m: 傾斜30°の割れ目沿いがマサ状を呈する。 6.51~6.62m: 指で砕ける程度にマサ状を呈する。 6.62~6.67m: 上位より硬く、爪で辛うじて削れる程度である。 6.67~6.70m: 礫状コアとなる。 6.70~7.31m: 傾斜10~45°の割れ目が1~3cm間隔で発達し、岩片状コアを主体とする。 6.91m: 傾斜30°の割れ目沿いがマサ状を呈する。 7.08~7.11m: 傾斜約20°の割れ目沿いが幅3cm程度でマサ化する。	50	CL'													ダブルコアチューブ / ダイアモンドビット																																		
8			+ +	明褐灰			Vg cg	γ	2	7.31~7.49m: 1cm以下の間隔で傾斜10~20°の割れ目が密集し、指圧で砕ける程度の硬さとなる。 7.49~8.25m: 網目状に割れ目が発達し、指で砕ける程度にまで軟質化する。 7.71~7.78m: マンガン鉱染が見られ、白色の粘土も局所的に含む。	100	D'																																															
9			+ +	明褐灰			VIg dg	δ	3	8.25~8.78m: マサ状を呈し、所々やや硬い部分が礫状に残る。 8.40~8.41mに幅10mm、8.47~8.51mに幅40mmのほぼ水平な灰色の砂質粘土を挟む。粘土の上下端は波打つ。 8.78~8.92m: 指圧で辛うじて砕ける程度の硬さで、割れ目に黒色鉱物が充填する。	200	D'										115 / ケーシング																																					
			+ +	明褐灰			Dg IVg	γ	2	9.30~9.64m間に4本の傾斜30~40°の同系統の割れ目が分布する。割れ目面にはマンガン鉱染が見られる。 9.36~9.64m: 上位より硬くなり、割れ目はやや少なくなるが、割れ目面は褐色化する。 9.64~11.47m: 傾斜30~45°と60°の割れ目が交差する。ほとんどの割れ目にマンガン鉱染が見られる。	250	CL'																																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (試験) (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														(N)	(値)																
11			花崗斑岩	明褐灰		IVg	cg	γ		10.00~10.04m付近は網目状に割れ目が分布し、一部マサ化する。 10.21~10.23m：割れ目沿いがマサ状~礫状となる。変質を受け、コアは軟質である。 10.82m付近の傾斜30°の割れ目沿いが幅5mm程度でマサ状を呈する。 10.87~11.06m：コアはやや硬い。	CL'								7/30												
12				淡橙		Dg			3	11.42m付近の傾斜15°の割れ目に幅5mmの褐色充填物を伴う。 11.47~13.38m：傾斜45°と60°の割れ目の他、微細な割れ目も発達する。全体に変質し、割れ目が不明瞭になる。 11.47mの傾斜25°、11.52mの傾斜7°の割れ目に幅1~4mmの褐色粘土を挟む。 11.87m、11.90m：傾斜40°の割れ目にマンガン鉱染が見られる。 12.08~12.10m：土砂状を呈する。	D'										95	115 / ケーシング	ダブルコアチューブ / ダイアモンドビット	80.0	100	0.1	泥水	1			
13						IVg		γ	2	13.38~14.33m：傾斜約30°と60°の割れ目が交差し、部分的に岩片状コアとなる。ハンマーの打撃で鈍い金属音を発する。 13.38m：傾斜40°の割れ目に幅1.5mm程度の黄褐色シルトを挟む。 13.38~13.54m：コアの表面は粗く軟質である。 13.54~13.66m：岩片状を呈する。																					
14						VIg		δ	3																						
						Cg	IVg				14.24~14.27m：上端27°、下端15°で幅30mmの隙混じり砂質シルト状を呈する。軟質で指が貫入する。 14.33~14.55m：割れ目は一部黒色化し、微細な割れ目が分布する。 14.55~15.71m：コアの硬軟を繰り返す。硬質部は割れ目が少なく、コア表面も滑らかである。 14.64m：傾斜75°の割れ目に幅10~20mmの灰色の砂を挟む。	CL'																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															(N 値 ~ 深度) 図																							
21			花崗斑岩	明褐灰	Dg Vg	δ	3	20.18m: 傾斜10°で幅2mmの軟質な褐色粘土を挟む。割れ目に沿って幅1~10mmがオリープ灰色を呈する。	CL'																													
					Cg IIIg	γ	2	20.36~20.49m: コアはやや硬く、割れ目は褐色化するが、密着する。																														
					Dg Vg	δ	3	20.65~20.76m: 傾斜10°と65°の3本の割れ目に幅1~4mmの灰色粘土を挟む。																														
					IVg	2	21.00~21.87m: コアはやや硬いが、傾斜10~30°の割れ目が発達し、高角度の割れ目と交差して岩片状を呈する。	Cg																														
					Vg																																	
					Dg																																	
					IVg	γ	21.63~21.65m: 傾斜10°の割れ目沿いにマサ化する。割れ目は褐~黒色化する。	Cg																														
					Vg																																	
					Dg																																	
22					花崗斑岩	橙	Cg	3		21.63~22.57m: 破砕部 21.63~22.57m: 岩片状部(Hj) 上端10°で波打つ。下端22°で直線的。明褐灰~褐色を呈する。 22.11~22.26m: 風化・変質の影響が軽微でコアは柱状をなし、ハンマーの打診で金屬音がする。破砕部中の中石である。																												
			IVg																																			
			IIIg																																			
			IVg	δ			22.26~22.41m: 傾斜60°と20°の割れ目は岩片状コアからなる。22.41mの傾斜20°の割れ目に褐色のフィルム状の細粒部を挟む。																															
			Dg																																			
			Vg	CG			22.26~22.66m: 0.5cm間隔で傾斜10~30°の割れ目が発達し、全体に風化が進む。 コア表面は粗い。22.41m以深は傾斜20°程度の割れ目が密集し、マンガン鉱染が見られる。																															
			Dg																																			
23			花崗斑岩	明褐灰			Cg	γ	22.83m以深、コアはやや硬くなるが、割れ目が多く、マサ状の砂を充填するものが多い。																													
							IVg																															
							Bg			IIIg	23.61~23.87m: 割れ目は褐色化するが、密着する。																											
					Dg																																	
24			花崗斑岩	にぶい橙	Cg	δ	24.10~24.70m: 傾斜30~70°の割れ目及び網状割れ目が発達し、割れ目に褐色粘土を挟む。 24.11m: 傾斜15°の割れ目沿いはマサ化している。 24.18m付近、割れ目に傾斜35°、幅5~15mmのシルトを挟む。 24.28m: 傾斜60°の割れ目に幅2mmの褐色粘土を挟む。																															
					IVg																																	
					Dg			Vg	24.70~25.00m: 短柱状コア。割れ目が発達し、面は褐色化。傾斜80°程度の鉛直割れ目が発達。 24.80m: 傾斜35°の割れ目沿いが褐~灰色を呈する。																													
			IVg																																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															(N 値 ~ 深度) 図																				
26			+	明褐灰				γ 2			25.00~25.32m: 割れ目の面はマンガン鉱染で黒色化し、砂状の充填物を挟む。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																				
											Dg Vg δ 3																						25.32~25.75m: 軟質。傾斜約70° 割れ目が1cm間隔で発達。一部の割れ目沿いに石英細脈が貫入。マンガン鉱染が網目状に見られる。	8	100
											Cg IVg																						25.75~25.86m: 硬質。傾斜25° の割れ目の面が黒褐色化している。		
											Bg IIg																						26.00~26.46m: 長柱状コアを呈するが、傾斜70° の微細な割れ目が発達する。		
											IVg																								
											Vg																						26.57m: 傾斜35° の割れ目にマンガン鉱染が見られる。	56	100
																																	26.66~26.79m: 傾斜約60° の割れ目が発達。マンガン鉱染が見られる。		
											Cg																						26.96m: 傾斜65° の割れ目沿いに幅10mm程度の黒褐色充填物を挟む。		
											IVg																								
											Cg																						27.20m: 傾斜35° の割れ目にマンガン鉱染が見られる。		
27			+	花崗斑岩				γ 2			27.47~27.70m: 傾斜30~45° の細かい割れ目が発達。全体にマンガン鉱染が見られる。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																				
											Vg																						27.70~28.18m: やや硬質。割れ目は傾斜35~70° で密着するものが多い。割れ目の面は薄い褐色の充填物が分布。	27	100
											IIIg																						27.96m: 傾斜30° の割れ目に幅3mmの黒褐色のマンガンを挟む。		
											IVg																								
											Eg																						28.15~28.63m: 上端45°、下端51°で、微細な割れ目が発達し、コアは塊状化する。岩質は軟らかく、爪で削れる程度の硬さ。割れ目の面は黒色に変色し、一部は割れ目の面に沿ってマサ化する。	4	100
											Vg																						28.35m: 傾斜45° の割れ目に幅2mmのマンガンを挟む。	6	100
											Dg																						28.63~29.22m: 径1~3cmの塊状コアを呈する。一部でマサ化する。割れ目の面は褐色化する。		
											Dg																						28.64m: 傾斜50° の割れ目に幅1~6mmの灰白色粘土を挟む。		
											IVg																						29.21m: 傾斜43° の割れ目に幅0.2~0.3mmのシルトフィルムを挟む。	15	100
											IVg																						29.22m: 以深はコアが硬くなる。5~15cmの割れ目間隔となりコアは良好。		
28			+	明褐灰				γ 2			29.22~29.46m: 鉛直の割れ目が分布する。割れ目によってマンガン鉱染が見られる。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																				
											Cg																						29.57m: 傾斜25° の割れ目に砂を挟む。		
											IIIg																						29.74~29.75m: 傾斜45° で幅8mmの石英脈を挟む。		
											IVg																						29.80m: 以深はやや割れ目が多くなる。		
29			+	明褐灰				γ 2				0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
																	() 図	N 値 ~ 深度	N 値	Q 値	D 値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
31			+	花崗斑岩	明褐灰	IV _E	CG	γ	2			30.31~30.33m: 傾斜30° の割れ目が幅2cmでマサ化する。	0	50	R	Q	D	L																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
																																						30.48m: 傾斜45° の割れ目周辺は細礫状化する。割れ目面に酸化汚染が見られる。	25	[37]	100																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
																																																																							30.67~30.93m: コアは非常に硬い。																																																																																																																																																																																																																																																																																												
																																																																																																									30.93~31.20m: 径1~3cmの岩片状を呈する。																																																																																																																																																																																																																																																										
																																																																																																																																												31.27~31.57m: 軟質。手で碎ける程度の硬さ。微細な割れ目が発達し、全体に割れ目の面は褐色化する。	9	[6]	100																																																																																																																																																																																																																				
																																																																																																																																																																															31.57~32.33m: 傾斜20~70° の割れ目が主体。割れ目間隔は1~5cmで岩片状を呈する。ハンマーの打撃で金属音を発する。																																																																																																																																																																																				
																																																																																																																																																																																																																		32.33~32.65m: 岩片状を呈する。	10	[10]	100																																																																																																																																														
																																																																																																																																																																																																																																																					32.76~33.41m: 傾斜30~50° 程度の割れ目が発達し、コアは砂状~礫状からなる。																																																																																																														
																																																																																																																																																																																																																																																																																									33.41~34.13m: 0.5~3cm間隔で割れ目が発達し、コアは礫状~岩片状となる。ハンマーの打撃でにがい音を発する。	14	[6]	100																																																																							
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													33.45~33.55m: 網目状に割れ目が分布し、割れ目沿いに劣化する。																																						
																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	34.13~34.65m: 割れ目が少なくコアは短柱~柱状となる。非常に硬質でハンマーの打撃で金属音がする。		
34.42~34.82m: 傾斜30° の割れ目が卓越し、割れ目の面は黒色化し、砂を挟む。	27	[30]	100																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
																																				34.82~35.75m: 割れ目に沿って風化・変質が進む。マサ化が進み、コアは軟質となる。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
																																																																							ダブルコアチューブ / タイヤホモロポロント	86 / 泥水	86.0	100	0.1																																																																																																																																																																																																																																																																																								
																																																																																																									8 / 4	90																																																																																																																																																																																																																																																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														0	10	20	30	40												50								
		36	花崗斑岩	明褐灰			Dg	IVg	δ	3	35.30m付近、傾斜5°の割れ目沿い幅約10mmでマサ化する。	CL'																										
							Cg	Vg		35.50m付近、割れ目沿い幅約7mmでマサ化する。傾斜約30°の割れ目が卓越し、割れ目の面は黒~褐色化。																												
									cg	35.75~36.14m: コアは岩片状を主とする。岩片自体は比較的硬質であるが、上下位に比べて割れ目が密集する。																												
		37	花崗斑岩	褐灰			Dg	IVg		2	36.14~36.21m: 隙混じり砂状を呈する。幅50mm、上端45°、下端50°、硬さE。下端側には薄く褐色粘土が付着する。上下端ともシャープな面をなす。36.21~37.70m: 一部岩質は硬いが大半は硬さをなす。割れ目は傾斜20~30°の低角度のものが優勢であり、割れ目は酸化汚染を受け褐色を呈し、細粒化する(幅数mm)。岩芯は弱く褐色に汚染される。コアの表面はザラつく。	CH'																										
									γ	36.80m: 傾斜35°の割れ目に幅1mmのマンガンを挟む。																												
							Bg	IIIg	bg	37.67m: 傾斜50°で幅1~2mmの石英脈を挟む。 ●37.86~37.91m: 破砕部 37.86~37.91m: 粘土混じり礫状部(H) 上端30°、下端35°で、幅40mm。褐色を呈し、下端側に幅1~2mmの灰白色粘土を伴う。上端側にも幅数mmの細粒部を挟む。																												
		38	花崗斑岩	明赤灰				Vg			37.91~38.82m: 上下位に比べて岩盤の劣化は軽微である。岩芯は概ね新鮮であり、上部は割れ目沿いに酸化汚染が見られるが、下部の割れ目の酸化汚染は弱い。	CL'																										
							Cg		cg	38.19~38.51m: 傾斜20~40°の割れ目が分布する。割れ目面に酸化汚染、マンガン汚染が見られる。																												
									cg	38.82~39.10m: 岩自体は硬質(硬さC)であるが、傾斜20~30°程度の割れ目が密集する。割れ目沿いに細片化、細粒化が見られる。																												
		39	花崗斑岩	明赤灰			Dg	Vg		δ	39.10~39.70m: 上位に比べて、割れ目は少ない。割れ目沿いの細片化、細粒化は見られる。	CL'																										
							Eg	VIg	dg	39.70~39.88m: 選択的に酸化汚染を強く受け、褐色を呈する(特に39.80mの傾斜5°の割れ目周辺部)。割れ目面にはマンガン脈が見られる。																												
										39.88~40.12m: 岩盤が劣化し、岩芯まで細片化、細粒化が見られる。																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
															0	10	20	30	40												50					
41			+	明赤灰	Eg	VIg	dg	δ			40.12~41.16m: 岩盤が劣化し割れ目が密集する。岩自体もやや軟質となる。	0																								
																															7	10	15	20	25	30
42			+	褐灰	Dg	VIg	cg	γ			40.46~41.01m: 有色鉱物に富む。色指数10%程度。優黒質岩 (トータル岩)。 40.46~40.94m: 傾斜20~40°程度の割れ目が主体。割れ目沿いに黒褐色に酸化汚染を受け、マンガンが形成される。上下位の酸化汚染は軽微であり、選択的な酸化汚染部である。	0																								
																																	6	10	15	20
43			+	灰褐	Cg	IIIg	bg	2			41.16~41.58m: 上下位に比べ岩盤の劣化は軽微であり、岩芯は新鮮である。割れ目には挟在物は認められず、わずかに酸化汚染が見られる。	0																								
																															16	20	25	30	35	40
44			+	淡赤橙	Dg	VIg	cg	γ			41.58~41.84m: 上位に比べて岩質は軟質となり、亀甲状の割れ目が見られる。41.70mの傾斜40°の割れ目は、幅1~3cmにわたって黒褐色を呈し、細片化、細粒化が見られる。 41.84~42.62m: 上部は下部に比べてやや軟質であるが、概ね硬質である。	0																								
																																	17	20	25	30
45			+	褐灰	Eg	VIg	dg	δ	3		●42.62~42.88m: 破砕部 上下端とも45°程度の傾斜をなす。 42.62~42.82m: 粘土混じり礫状部 (Hb) 上端45°で直線的、下端48°で不明瞭。灰白色を呈する。 42.82~42.88m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 上端48°で不明瞭、下端45°で直線的。やや軟質。原岩組織は認められない。灰白色を呈する。下端に幅1~3mmの灰白色粘土を挟む。 42.88~43.18m: 上下位の破砕部に挟まれ、岩盤は劣化する。上位の破砕部との境界には幅20mm程度のマンガンが帯状に見られる。 ●43.19~43.62m: 破砕部 上端45° 下端40°の傾斜をなす。 43.19~43.21m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端42°で波打つ、下端43°で直線的。灰白色を呈する。幅12mm。 43.21m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜43°で幅3mmの褐色粘土からなる。 43.21~43.27m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端43°で直線的、下端20°で波打つ。褐色を呈する。 43.27~43.33m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端20°で波打つ、下端44°で直線的。粘土化が顕著。灰白色を呈する。 43.33~43.49m: 粘土混じり角礫状部 (Hj) 上端44°で直線的、下端45°で漸移的。褐色を呈する。 43.49~43.60m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端45°で漸移的、下端52°で波打つ。灰白色を呈する。 43.60~43.62m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端52°で波打つ、下端30°で波打つ。軟質。褐色を呈する。幅10mm程度。 43.62~44.50m: 破砕部の下端であり、岩盤が劣化し割れ目は多い。 44.30~44.46m付近の傾斜10~50°の割れ目に酸化汚染やマンガンの濃集が見られる。 44.50~45.27m: 岩自体は硬質となり、割れ目も少ない。 44.70~44.80m: 岩盤が劣化し細片化する。	0																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長さ (cm)	R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
																(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																						
		46	+ +	花崗斑岩	褐灰	Cg	IVg	δ			45.00~45.27m: 傾斜50~60°の割れ目が2~5cm間隔で発達し、割れ目沿いに褐色化する。 45.07~45.15m: 傾斜30~75°の割れ目が交錯し、岩盤は劣化する。 45.27~45.33m: 傾斜50°の割れ目沿いに褐色化が認められるが岩質は硬質でコアは柱状を呈する。	0	50	100	CL'																								
																															Bg	IIIg	γ	2					
					花崗斑岩	明褐灰	Cg	IVg	δ			45.33~46.02m: 傾斜40~45°の割れ目が交錯し、1~5cmの岩片~短柱状コアを呈する。割れ目面は黒褐色化し、岩質はやや軟質となる。 46.02~46.49m: 傾斜40~50°の割れ目が1~2cm間隔の網目状に発達し、割れ目沿いに岩盤が劣化する。特に46.21~46.49m間は、粗粒にマサ化し、割れ目が判読しにくくなる。	0	50	100	CL'																							
																																		Dg	Vg	3			
							花崗斑岩	明褐灰	Cg	IVg	δ			46.49~47.65m: 傾斜20~40°の割れ目が3~10cm程度の間隔で発達する。割れ目沿いに酸化・マンガン汚染が認められるが、コアは黒ね硬質である。 46.53~46.60m: 傾斜45~50°で幅1~2mmの石英脈を2条挟む。 46.69~46.79m: 傾斜30~50°の割れ目が1~3cm間隔で発達し、コアは黄色味を帯びる。コアはやや軟質となる。 46.72~46.80m: 傾斜45~50°で幅1~2mmの石英脈を2条挟む。 46.95m, 46.99m: 傾斜45°の割れ目沿いが褐~黒褐色化し、幅2.5mmで岩盤が劣化する。 47.33m: 傾斜43°で、幅5~10mmの細粒混じり砂を挟み、周辺幅3~5cmで酸化汚染や変質広がる。 47.55~48.33m: 傾斜20~40°の割れ目が2~5cm間隔で、傾斜70°の割れ目が30cm間隔で発達・交錯する。コアは、2~3cmの岩片状を主とし、一部短柱状を呈する。割れ目の多くは弱く褐色化し岩質の劣化を伴う。 47.69~47.80m: 傾斜15~20°の割れ目面が黒褐色化する。	0	50	100	CL'																					
				Vg																																			
				花崗斑岩					明赤灰	Cg	IVg	δ			48.33~48.79m: 傾斜30~45°の割れ目が3~5cm間隔で発達し、コアは岩片状を呈する。 48.36~49.44m: アフライト径1mm以下の微晶で構成される。この上下の花崗斑岩は同質である。 48.49m傾斜10°、48.55m傾斜30°、48.64m傾斜50°の割れ目沿いにマンガン、酸化汚染が広がる。 48.79~48.87m: 変質部。幅58mm、傾斜45°。コアは緑灰色を呈し、やや軟質である。 48.82~48.85m: 幅25~40mmの灰白色粘土混じり砂礫状を呈する。白雲母が散在する。 48.87~49.24m: 傾斜30~45°の割れ目が、1~3cm間隔で発達し、コアは岩片状を主とし、やや軟質である。以下の区間は割れ目が交錯し、岩盤が劣化する。	0	50	100	CL'																				
					Vg	2																																	
					花崗斑岩	明褐灰				Cg	Vg	γ			49.06~49.25m: 上端35°、下端40°の割れ目に規制される。上端には幅1mmの灰黄褐色粘土を伴う。 49.84~50.01m: 上端60°、下端20°の割れ目に規制される。上端には幅1~2mmの灰褐色粘土を伴う。	0	50	100	CL'																				
							Dg	VIg																														δ	
								Dg		VIg	δ			49.39~49.45m, 49.91~49.99m: 不規則に黒褐色のマンガンや酸化汚染が広がる。																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コ形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														(N)	(m)																			
51			花崗斑岩	明褐灰	Dg IVg cg	2	cg	2	γ	50.24~50.60m: 上端40~50°で凹凸・下端65°。白色粘土及びマンガン汚染が不規則に分布する。明瞭なせん断。変形構造は見られない。 50.34~50.53m: 粘土質砂礫状を呈する。上端: 幅1~3mmの褐色粘土を伴う幅10~15mmの灰白色砂混じり粘土。傾斜50°程度。下端: 幅10~20mmの灰白色砂混じり粘土で連続性は悪い。傾斜不明。直線性。連続性の良い粘土は認められない。 50.60~51.04m: 傾斜20~30°の割れ目が、幅1~5cm間隔で発達し。コアは岩片状を主とする。割れ目の多くにマンガンを伴う。 50.71~50.83m: 硬質柱状コアを呈する。 51.04~51.30m: コア全体が上位に比べやや軟質化する。 51.11m: 傾斜0°。51.16m: 傾斜50°で幅5mmのマンガン脈を挟む。 51.23~51.25m: 傾斜45°で幅15mmが灰白色粘土化する。 51.30~52.70m: 上端50°。下端65°の割れ目で囲まれる。割れ目沿いに酸化鉄汚染が認められるが、割れ目は密着し。長柱状コアを主とする。比較的新鮮で、ハンマー打診で金属音を発する。 51.38m: 傾斜65°で幅1mmの石英脈を挟む。	CL'																							
52					Bg IIg bg	2	bg	2		bg	2	51.54~51.77m: 傾斜70~75°。割れ目が平行に分布する。割れ目は低密着し。幅1~2mmのマンガンや褐色粘土を挟む。 52.01m: 傾斜30°の割れ目面に粘土は挟まないが、マンガンが若干付着する。 52.06m: 傾斜60°。幅1cmで褐色化するが、軟質化はしていない。 52.30m: 傾斜20°。幅5mmで褐色化するが、軟質化はしていない。 52.42~52.53m: 傾斜45°の割れ目面は褐色化し。粘土やマンガンを含まない。この割れ目の下位側52.53mまで径2~5mmのマンガンが斑点状に分布する。	CH'											8/11	100	86 / 泥水	ダブルコアチップ / ダイアモンドビット	50.0	100	0.1	泥水1	0		
53					Bg IIIg bg	3	cg	3		cg	3	52.70~52.90m: 上下に比べやや変質が進み。軟質化する。傾斜60~80°の割れ目が多く。面には幅1mm以下で褐色。白色粘土を伴うものもある。 52.73m: 傾斜60°と傾斜20°の割れ目が交差する。傾斜20°の割れ目は開口面にマンガン脈染が見られる。 52.90~53.95m: 硬質で割れ目は少ない。コアの表面は褐色化するが軟質化はしていない。 53.05m: 傾斜35°の割れ目にマンガン脈染が目立つ。 53.42m: 傾斜35°。~53.48m: 傾斜20°の割れ目に囲まれてコアはやや軟質化する。割れ目面には断片的に幅0.1mmの褐色粘土フィルムが付着する。	CL'																					
54					Bg IIg bg	2	cg	2		cg	2	53.54m: 傾斜45°の割れ目と直下の53.61m: 傾斜45°の潜在割れ目が平行に分布する。 53.95~54.79m: 傾斜45°の割れ目沿いに径1cm前後に砕けている。粘土は伴わない。割れ目沿いに細片化する岩芯は酸化汚染を受け、弱く褐色汚染する。 54.25~54.40m: 傾斜10~80°の割れ目沿いに細粒化し。マンガンを伴う。	CL'																					
						灰褐	Bg IIg bg	β		bg	β		54.79~55.46m: 上下位に比べて新鮮。硬質で長柱状コアを主とする。54.79~54.90m及び55.23~55.46mは酸化汚染を受け弱く褐色に汚染される。	CH'																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																			
56			花崗斑岩	灰褐	Bg IIg bg	β				55.46~55.72m: 上下位に比べて割れ目が密集し、傾斜30~40°の割れ目が発達する。 55.46~55.58m: 割れ目沿いに細粒化し、割れ目は酸化汚染を受け、褐色を呈する。 55.58~55.72m: 上部に比べて硬質となる。 55.72~56.36m: 岩盤の劣化をほとんど受けず、新鮮・硬質であるが、55.72~56.10m間は岩芯まで酸化汚染を受け、弱く褐色を呈する有色鉱物の周辺が褐色化する。56.10~56.36mは上部に比べて新鮮で長柱状コアを主とする。	OH'																							
57				褐灰	Bg IIg bg	β					56.36~57.10m: 上位に比べ割れ目は多い、傾斜5~70°の割れ目間隔は5~10cm程度となる。岩片~短柱状コアを主とする。57.10mまでは岩芯は概ね新鮮であるが、割れ目沿いに岩盤が劣化し、細粒化する。割れ目にはマンガンが付着する。有色鉱物の周囲は褐色化する。 56.69m: 傾斜40°の割れ目に幅1mmの褐色の砂を挟む。									8/13	95		ダブルコアチューブ / ダイアモンドビット	58.0	100		0.1	泥水1	0					
58				にがい橙	Dg Vg cg	δ	3				57.10~57.65m: 岩芯まで酸化汚染を受け、部分的に弱く褐色を呈する割れ目は酸化汚染を受け、黒褐色を呈するマンガンが付着する。コアは比較的新鮮で、割れ目は少なく、57.25~57.50mは長さ25cmの柱状コアとなる。 57.17m, 57.59m: 傾斜60°の割れ目面に酸化汚染やマンガン鉱染が見られる。 57.65~58.50m: 淡褐色を帯び、部分的に不規則・不連続な淡黄色の粘土を伴う変質軟岩である。上下位に比べて割れ目が多く、割れ目沿いの細片化・細粒化が見られる。岩自体もやや軟質となる。割れ目間隔は0.5~3cmで礫状~岩片状コアからなる。 57.65~57.88m: 傾斜40~60°の割れ目が主体で、割れ目面に酸化汚染やマンガン鉱染が見られる。 57.92~58.05m及び58.22~58.31m: 土砂状を呈し、軟質である。	CL'																						
59				灰白	Cg IVg	γ	2				58.50~58.91m: 赤色を帯び、岩盤が劣化し割れ目が密集する。全ての割れ目が酸化汚染を受け褐色を呈し、細粒化・細片化する。割れ目は傾斜20~50°が主体。 58.91~60.73m: 上位に比べて岩盤の劣化は軽微であり、岩芯に新鮮部が見られる。部分的に割れ目沿いに劣化し細粒化する。																							
			褐灰	Cg IVg	γ	2																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (試験) (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																									
															N	値																																				
				花崗斑岩	褐色						60.11m: 傾斜65° の割れ目に幅1~2mmの黄色砂を挟む。																																									
											Cg IVg			γ	2														60.34~60.37m: 傾斜60~65° の同系統の割れ目が分布する。60.37mに幅1mmのマンガン結染を挟む。																							
											Dg Vg			δ															60.73m: 傾斜65° で幅4~6mmの黒褐色を呈するマンガン細粒物質が見られる。軟質 (硬さE) である。 60.73~60.90m: 上下部にマンガン脈を伴う岩盤劣化部である。																							
											Cg IVg			γ															60.90m: 傾斜45° で幅15~20mmのマンガン脈を挟む。マンガン脈中に小岩片を取り込む。																							
											Eg VIg			δ	3														●61.09~61.22m: 破砕部 61.09~61.22m: 角礫状部 (H) 上端48°、下端70°で、上下位の花崗斑岩と接する。いずれも境界は直線的。幅0.7cm程度。下部の破砕は軽微で、岩片は硬質 (硬さC) であり、原岩の組織を残す。褐色を呈する。61.09mにはフィルム状の細粒部を連続的に挟む。 61.22~62.20m: 岩芯は一部褐色化し、有色鉱物の周囲は褐色化する。割れ目にはマンガンが形成され、微細な割れ目も酸化汚染を受け褐色を呈する。																							
											Bg IIIg																		62.20~62.59m: 上下位に比べて硬質となる。岩芯には新鮮部が見られるが、全ての割れ目は褐色化する。																							
											Dg Vg																		62.59~62.83m: 上位に比べて軟質となるが、上部はやや硬い (硬さC)。割れ目沿いに細粒化する。																							
											IIIg			cg	γ														2	62.83~62.97m: 傾斜45~50° の同系統の割れ目にマンガンが形成される。上位に比べて岩片は硬質となる。割れ目沿いの岩盤の劣化も上位に比べて軽微ではあるが、細粒化は見られる。																						
											Cg IVg																			62.97~63.31m: 上位に比べて割れ目は少なく、下部には新鮮部が見られる。62.97~63.11mは割れ目の周辺まで酸化汚染を受け、マンガンが濃集する。																						
											Dg Vg																			63.31~63.37m: 岩芯は概ね新鮮であるが、全ての割れ目が褐色化し、一部の割れ目に細片化が見られる。 63.33m: 傾斜15° の微細な割れ目に沿って幅5~10mmの明緑灰色の変質部が見られる。																						
											Cg IVg																			63.73~63.97m: 上下位に比べて岩盤が劣化し、割れ目が多い。傾斜30°程度程度の割れ目が卓越する。割れ目にはマンガンが形成される。 63.88~63.97m: 割れ目沿いに青灰色を呈する変質部が見られる。 63.97~65.87m: 岩片自体は硬質で岩芯には硬さBの硬質部が見られる。割れ目沿いは岩盤が劣化し細粒化する。岩芯は概ね新鮮であるが、全ての割れ目が褐色化する。傾斜60~90° の高角度割れ目と傾斜10~30° の低角度割れ目が交錯し、岩片~柱状コアを主とする。																						
																														64.00~64.22m: 傾斜60~70° の割れ目周辺にマンガン結染が見られる。 64.06~64.14m: 石英の晶洞が傾斜60°程度で見られ、その周囲に暗緑色を呈する変質部が形成され、黒褐色のマンガンが濃集する。 64.10m付近に局部的に青灰色の変質部が見られる。 64.48~65.59m: 鉛直方向の割れ目が発達する。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
													0	10	20	30	40												50							
			花崗斑岩	褐灰	Cg	Cg	γ	2	65.08~65.87m: 傾斜10~50°の同系統の割れ目が発達する。一部の面に幅0.5~1mmの砂を挟む。	10 [13]	CL'								8/14																	
66									65.87~66.61m: 上下位に比べて岩盤の劣化は軽微であり、割れ目は少ない。割れ目沿いの岩盤の劣化は見られない。岩芯は弱く褐色化し、割れ目は全て褐色化する。	15 [37]	CM'																									
									66.28~66.37m: 傾斜40°の割れ目沿いに細片化した割れ目密集部である。																											
									66.61~67.06m: 傾斜40°前後の割れ目が卓越し、割れ目が多い。割れ目沿いに細粒化する。岩芯は硬さBの硬質部が見られる。 66.84m: 傾斜50°の割れ目沿いに明緑灰色の変質鉱物が見られる。																											
67									67.03m: 傾斜60°の割れ目に褐色の細粒物質を挟み、明緑灰色の変質鉱物が付着する。 67.06~67.43m: 上下に比べ割れ目はわずかに少なくなるが、割れ目沿いの細粒化が見られ、67.19mの傾斜40°の割れ目には明緑灰色の変質鉱物が見られる。	15 [4]	CL'																									
									67.36m: 傾斜45°の割れ目に沿って幅2~15mmで岩片状を呈する。 67.43~67.99m: 傾斜45°程度の割れ目が1~4cm間隔で見られる。 67.60m: 幅5~10mmのマンガン濃集帯が分布する。																											
									67.93~67.98m: 傾斜45°の割れ目に幅1mm程度の黄褐色を呈する細粒物質を挟む。 67.99~68.22m: 上位に比べて割れ目がやや少なくなり、コアはやや硬くなる。 68.22~68.82m: 上下位に比べて割れ目は少なく、傾斜0~60°の割れ目が散在する。																											
68									68.38~68.50m: 傾斜20~30°の割れ目密集部で、全ての割れ目にマンガンが付着する。 68.63~68.66m: 傾斜5~10°の割れ目沿いに細片化する。	15 [42]	CM'																									
									68.82~70.54m: 上位に比べてわずかに割れ目が多くなり、上位と比べて微細な割れ目が発達し、割れ目沿いに細粒化する。																											
69									69.26~69.42m: 傾斜50~70°の同系統の割れ目が分布する。全ての割れ目面に酸化汚染が見られる。	14 [24]	CL'																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (試験) 図 (N値~深度)					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																
															0	10	20	30	40												50															
			花崗斑岩	褐灰	Cg	IVg	cg	γ	2	δ	70.23~70.26m: 割れ目が密集して岩盤が劣化し細片化する。全ての割れ目にマンガンが付着する。	0	CL'																																	
71											Dg	Vg					70.54~71.41m: 破砕部 上端48°, 下端57°をなす。 70.54~70.74m: 角礫状部(Hj) 上端48°で直線的, 下端47°で湾曲する。不規則・不連続な粘土を含む。原岩の組織が見られる。明褐灰~灰白色を呈する。 70.74~71.41m: 粘土混じり礫状部(Hj) 上端47°で湾曲, 下端57°で波打つ。灰白色の粘土が網目状に見られる。岩片は軟質(硬さD)。明褐灰~灰白色を呈する。71.08~71.41m間は黄色粘土が優勢となる。	10	D'																											
											Eg	VIg					71.41~71.91m: 角礫状コアであるが、岩片は硬い(硬さD)。傾斜25~45°の割れ目が発達する。割れ目沿いは全て細粒化する。	3	CL'																											
72											Dg	Vg					3	CL'																												
											Eg	VIg					71.91~72.53m: 粘土混じり礫状を呈し、粘土は網目状に分布する。全体に原岩の組織を残す。 71.91~72.12m: 下部に比べて粘土が多く見られる。 72.12~72.19m: 岩片は上下位に比べてやや硬質となる。 72.19~72.53m: 粘土分は少なくなり、原岩の組織はやや不明瞭である。	3	D'																											
											Dg	Vg					72.53~72.78m: 岩片状コア主体で、微細な割れ目が見られ、不規則・不連続な灰白色粘土を伴う。原岩組織を残し、岩片は上下位に比べて硬い。 72.71m: 傾斜15°の割れ目に沿って褐色化が顕著である。 72.78m~73.31m: 粘土混じり礫状下部のGpとは傾斜25°をなす。明赤灰色の粘土が網目状に見られる。	3	D'																											
73											Eg	VIg					73.26~73.31m: 風化・変質により、岩盤が劣化する。上下端との境は褐色化する。 73.31~73.68m: 粘土混じり礫状部の下端側で、岩盤が劣化し割れ目が密集する。73.43~73.60mでは割れ目沿いの細粒化が見られる。 73.60m: 傾斜70°程度の割れ目沿いに幅2~4mmの酸化帯が形成され、明緑灰色の変質鉱物が局所的に見られる。 73.68~74.44m: 上下位に比べて岩盤の劣化は軽微であり、割れ目は少ない。下部は岩片が硬さCと硬くなる。	10	CL'																											
											Dg	Vg					74.25~74.32m: 傾斜45°の割れ目が2条分布する。両割れ目面は褐色化し、割れ目の間には灰白色粘土が網目状に分布する。 74.44~74.71m: 主に傾斜40~65°の割れ目が密集し、礫状~岩片状コアを主とする。 74.85m: 傾斜65°の割れ目付近に明緑灰色の変質部が見られる。 74.71~75.13m: 上下位に比べ岩盤の劣化は軽微であり、割れ目は少ない。割れ目は褐色化し、一部の割れ目にはマンガンが形成され細片化する。 74.86m: 傾斜40°で幅1mmの石英脈を挟む。	10	CL'																											
74											Cg	IIIg							74.25~74.32m: 傾斜45°の割れ目が2条分布する。両割れ目面は褐色化し、割れ目の間には灰白色粘土が網目状に分布する。 74.44~74.71m: 主に傾斜40~65°の割れ目が密集し、礫状~岩片状コアを主とする。 74.85m: 傾斜65°の割れ目付近に明緑灰色の変質部が見られる。 74.71~75.13m: 上下位に比べ岩盤の劣化は軽微であり、割れ目は少ない。割れ目は褐色化し、一部の割れ目にはマンガンが形成され細片化する。 74.86m: 傾斜40°で幅1mmの石英脈を挟む。	16	CL'																									
											Dg	Vg																																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
													N	値												
76			花崗斑岩	褐灰			IIIε	γ 2	75.13~75.36m: 岩芯は岩盤の劣化は見られないが、割れ目沿いに岩盤が劣化し、細片化する。		CL'															
		IVε					75.36~75.73m: 割れ目沿いに岩盤が劣化し、幅5cmにわたり細片化・細粒化する。75.62mの傾斜20°の割れ目には灰白色粘土を挟む。																			
		Vε					75.71~75.73m: 傾斜50°で幅15mmの粘土混じり礫状部からなる。岩盤は劣化し、硬さEとなる。																			
		Cg					75.73~76.21m: 割れ目沿いの細片化が見られ、全ての割れ目が褐色化する。割れ目の傾斜は5~60°で一部交差して岩片状を呈する。																			
		IVε					76.21~76.67m: 割れ目は2~10cm間隔で、コアは比較的新鮮で硬い。																			
		IIIε					76.67~76.94m: 傾斜15~30°を主体とした微細な割れ目が発達する。76.76~76.94mは長石類が変質し、軟質となる。																			
		Dg					●76.94~77.03m: 破砕部 上端60°、下端40°でいずれも直線的。																			
		Eg					77.03~77.26m: 粘土混じり砂礫状部 (Hb) 明赤灰色粘土が網目状に微細な砂礫間に挟む。せん断面と調和的で不連続な幅0.5mmで褐色化する淡黄色粘土脈が見られる。褐色色を呈する。																			
		Dg					77.26~77.40m: 岩盤劣化部で、傾斜30°程度の割れ目が発達し、全体に細粒化・細片化する。岩片は硬さCで硬い。																			
		Vε					77.40~77.63m: 上位に比べて岩盤劣化は軽微となり、岩片状コアを主とする。傾斜20~60°の割れ目が主で割れ目間隔は1~3cmでコアは硬い。																			
77			明褐灰				γ	2	77.63~77.95m: 上位に比べてさらに割れ目は少なくなり、岩芯は硬質となる。傾斜60~75°の割れ目が主体。77.63~77.95m: 微細な割れ目が見られるが、上位に比べて割れ目は少ない。柱状コアを呈し、硬い。	CM'																
		IIIε							77.94m: 傾斜30°の割れ目は褐色化し、斑状にマンガンが付着する。割れ目周囲の長石類は変質する。																	
		Cg							77.95~78.61m: 上下位に比べて岩盤が劣化し、割れ目は多くなる。岩芯は新鮮であるが、割れ目は酸化汚染を受け、褐色を呈する。傾斜90°と傾斜60~70°の割れ目が交錯し、コアは岩片状になりやすい。																	
		IVε							78.61~79.50m: 上下位に比べて岩盤の劣化は軽微であり、割れ目は少ない。割れ目の一部に細片化が見られる。																	
		IIIε							79.23~79.50m: 岩芯は弱く酸化汚染し、褐色を呈する。																	
		Dg							79.50~79.80m: 傾斜45~60°の割れ目が卓越する。全区間にわたり、細片化・細粒化し、特に、割れ目に沿って細片化が進む。割れ目には褐色系の粘土を挟む。																	
		Vε							79.66m: 傾斜45°で幅1mmの軟質な明黄褐色粘土を挟む。																	
		Cg							79.80~80.78m: 上位に比べて割れ目は少ない。岩芯は概ね新鮮であるが、割れ目に灰白色粘土が付着する。傾斜30~80°の割れ目が交差して、一部岩片状を呈する。割れ目間隔は1~10cmで微細な割れ目も少なく、コアは硬い。																	
		IVε																								
		IIIε																								
78			花崗斑岩	明褐灰			γ	2		CL'																
		IIIε																								
79			花崗斑岩	明褐灰			γ	2		CL'																
		IIIε																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)													
81			花崗斑岩	褐灰	Cg	IIIg	cg	IVg	2	80.78~81.03m: 上位に比べて割れ目は少ない。傾斜70°程度の高角度割れ目を主とし、これに伴う微細な割れ目が見られる。	CL'																	
		81.03~81.40m: 岩芯は概ね新鮮である。割れ目沿いに細片化・細粒化する。81.38~81.40m付近の傾斜20~30°の割れ目に局所的に灰白色粘土が見られる。																										
		81.40~81.68m: 上下位に比べて岩盤の劣化は軽微であるが、81.68mの割れ目の周縁部は長石類の変質が見られる。																										
		81.68m: 傾斜70°で幅2mm程度の黒褐色を呈する軟質なマンガンを含む。																										
		81.69~82.02m: 変質作用による岩盤劣化部で、原岩の組織や割れ目が不明瞭となる。長石類が全て変質する。一部に割れ目が識別できる非変質部があり、割れ目は少なく、岩片は硬さCと硬質になる。変質による劣化も軽微である(2ランク)。																										
		81.76m: 灰白色粘土が網目状に分布する。																										
82				明褐灰	Eg	VIg	dg	Vg	3	82.02~82.59m: 岩盤が劣化し、割れ目が密集あるいは割れ目沿いの細片化が見られるが、上下に比べると割れ目は少ない。	D'																	
		82.42~82.59m: 微細な割れ目が見られ、風化・変質により、大半の長石類が変質する。																										
		●82.59~83.71m: 破砕部 82.59~83.71m: 粘土混じり礫状部(Hj)																										
		上端20°で不明瞭、下端54°でシャープ。下端には幅1~5mm程度で膨縮するやや軟質な灰黄色粘土を伴う。上下位に比べて軟質となる。																										
		特に83.25~83.71mでは全ての長石類が変質し、網目状の灰白色粘土が不規則・不連続に分布し、軟質(硬さE)となる。原岩の組織はわずかに残るが、割れ目は消滅し、識別できない。灰赤色を呈する。																										
		83.66mに傾斜55°で幅2mmのやや軟質な明赤灰色粘土を挟む。連続しているが、一部境界が不明瞭で直線性に乏しい。																										
83			灰赤	Dg	VIg	dg	Eg	3	83.71~84.60m: 上位に比べて変質作用による岩盤の劣化は軽微となるが、傾斜50~70°の高角度の割れ目と傾斜10~20°の低角度の割れ目が混在し、割れ目が多くなる。割れ目沿いの細片化及び割れ目の酸化汚染が見られる。	CL'																		
		84.06~84.28m: 傾斜45~50°の割れ目が発達し、割れ目周辺が酸化汚染により褐色を呈する。																										
		84.30~84.49m: 石英脈を不規則に伴い、局所的に暗灰色を呈する。																										
84			にぶい橙	Cg	IIIg	cg	IVg	2	84.60~85.30m: 上位に比べて岩盤の劣化はやや軽微であり、割れ目は少ない。割れ目の酸化汚染は見られるが、岩芯は概ね新鮮である。上位と同様、傾斜90°と60°程度の割れ目が交錯するが、密着している。	CL'																		
		84.94~85.00m: 微細な割れ目が密集する。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																					
															0	10	20	30	40												50																																																				
86			花崗斑岩	赤褐	Cg	IVg	cg				2	0			0	10	20	30	40	50			8/22	130	86 / 泥水	56.0	100	0.1	泥水 ₂	0																																																					
																															Dg	VIg	dg				3	5	10	20	30	40	50																																								
																																																										Vg	dg				4	10	20	30	40	50															
				赤	Dg					3	4	10	20	30	40	50																																																																			
																																にぶい橙	Cg					2	5	10	20	30	40	50																																							
				褐	IVg						15	15	20	30	40	50																																																																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記号	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
																(N 値 ~ 深度) 図																	
91			花崗斑岩	褐灰			IV _g					90.47~91.22m: 傾斜10~40°の割れ目及び微細な割れ目が見られる。特に傾斜15°程度の微細な割れ目が目立つ。	0			0	10	20	30	40	50												
					C _g																												
					V _g																												
					IV _g									91.22~91.59m: 鉛直方向の割れ目と傾斜20°程度の低角度割れ目が斜交する。低角度の割れ目は細片化し、マンガンが付着する。																			
					D _g									91.29~91.30m: 傾斜20°と30°の割れ目間が岩片状を呈する。マンガン鉱染が見られる。																			
					V _g									91.59~91.74m: 傾斜30~45°の割れ目が密集し、軟質となる。																			
92				灰褐	明褐灰			cg					91.74~92.22m: 傾斜50°の割れ目とこれに斜交する割れ目により、岩片状コアを主とする。																				
						V _g									92.06~92.30m: 傾斜20~30°の割れ目及び微細な割れ目が発達し、酸化する。汚染が見られる。																		
						IV _g									92.22~92.52m: 橙色を帯び、上下位に比べて岩盤の劣化は軽微であり、割れ目は少ない。																		
						C _g									92.37m: 傾斜50°で幅3mmのマンガン汚染が見られる。																		
						V _g									92.52~92.96m: 傾斜10~20°の割れ目が1~2cm間隔で見られる。長石類の一部に変質が見られ、不連続・不規則な灰白色粘土を伴う。																		
						IV _g									92.63m: 傾斜60°の割れ目沿いに細片化・細粒化し、幅2mmの褐色の砂を挟む。																		
93												93.10m: 傾斜60°、93.22m: 傾斜30°の割れ目沿いに幅10~15mmで径0.5~1cmに細片化する。粘土の付着はない。																					
			B _g									93.22~93.47m: 硬質 (硬さ「B」) で、93.33m傾斜35°の割れ目には粘土、砂などの挟在物なし。																					
			C _g									93.47~93.60m: 傾斜60°と0~10°の割れ目が交差し、コアの細片化が進む。割れ目に粘土は付着しない。酸化汚染。マンガン鉱染が見られる。																					
												93.60~94.68m: 一部で傾斜10~20°と60°の潜在割れ目が分布するが、密着し、ハンマーで強打しても分離・細片化しない。上部、下部で微細な割れ目が発達する。																					
94												94.05~94.50m: 傾斜30~70°で幅0.5~1mmの石英脈を4条挟む。																					
												94.68~94.80m: 傾斜10~30°の割れ目が1~3cm間隔でほぼ平行に分布する。粘土は伴わない。																					
												94.80~95.09m: 傾斜35°の割れ目がほぼ3cm以下の間隔で平行に分布する。粘土は伴わない。																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験 (N 値)					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															0	10	20	30	40												50					
96			花崗斑岩	明褐灰	Cg Vg	IIIg	cg	γ			95.09~95.27m: 上端35°, 下端40°の割れ目で開まれた中石状の硬質残留部である。 95.27~95.56m: 傾斜25~55°の割れ目が1cm間隔で平行に分布する。風化で軟質化する。割れ目の面に幅0.5~1mmのマングンを挟む。 95.56~96.44m: 硬質で潜在割れ目もよく密着し、ハンマー強打でも砕けない。 割れ目の面はごく薄く赤褐色風化。粘土脈や粘土付着なし。 95.85m: 傾斜80°で幅1~2mmの石英脈を挟む。	CL'																								
97				褐灰	Dg Vg	IIIg	cg	δ			96.44~97.21m: 全体に風化と変質を受け、上位より軟質である。径3~5mmの長石の白濁化やマンガン脈染が目立つ。変質粘土脈は分布しない。 97.21~97.54m: 変質による白濁化した長石は少なく、コアは硬い。 97.54~97.60m: 鉛直方向の割れ目が連続する。 97.60~97.86m: 変質により白濁化した長石が多くなる。また、一部に幅1~2mmで連続性はないが、軟質なシルト状の白色脈が点在する。 97.86~98.24m: 変質は弱い。風化により岩盤が劣化する。傾斜20~60°の割れ目が多く、割れ目にはマンガン脈染が見られ、割れ目に沿って風化が進む。 98.24~98.53m: 傾斜35°の割れ目が多い硬質部。 98.53~99.51m: 傾斜35~40°と80~90°の割れ目が交差し、径1~2cmの岩片状に砕けている。下位側の98.90~99.51mは細片化岩片が再固結し、珪化も受けている。 99.51~99.60m: 傾斜50~60°と80°の割れ目が交差して岩片状を呈する。全体にマンガン脈染が見られる。 99.60~99.96m: 全体に酸化汚染で橙色を帯びている。 99.96m以浅では、各割れ目にマンガン汚染が見られる。特に98.80mの傾斜35°と98.90mの傾斜50°の割れ目に閉まれてマンガンが幅6cmで濃集する。 99.80~101.74m: 割れ目は多いが、全体に新録で中硬質である。傾斜55~70°の割れ目主体で微細な割れ目も含め1~5cm間隔で平行に分布する。所々で、割れ目沿いに細かく破砕され、砂状化を伴う。	CM'																								
98				明褐灰	Dg Vg	IIIg	cg	δ					CL'																							
99				にぶい橙	Dg Vg	IIIg	cg	γ					CL'																							
				明褐灰	Dg Vg	IIIg	cg	β					CL'																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N 値 ~ 深度) 図																		
101	51.82	101.74	花崗斑岩	明褐灰	Cg	IVg	β			100.10m: 傾斜55°, 幅3~5mmで径2~3mmの岩片と緑灰色シルトを挟む。 100.27m: 傾斜70°, 幅2~8mmで径5mmの岩片と緑灰色シルトを挟む。 100.48~100.50m: 傾斜75°, 幅1cmで径1cmに細片化する。 100.66~100.67m: 傾斜5°で幅10~15mmの石英脈を挟む。 100.77m: 傾斜40°~100.81m: 傾斜40°で囲まれた範囲で、幅1~4cmで径0.5cmの角礫を含み粘土化している。 101.17mの傾斜65°と101.23mの傾斜20°及び60°の割れ目で囲まれた範囲が、幅1~4cm、径0.5~1cmの岩片状を呈する。粘土分はほとんど伴わず、マンガン汚染を伴う。	CL'																					
102										Dg																						
103			Cg	IVg	δ		103.09~103.52m: 傾斜60~70°の密着割れ目を多く含むが、ハンマーの打撃では分離・細片化しない。	CH'																								
104			アブライト	褐灰	Bg	bBg	γ																								103.52~104.26m: 傾斜55~60°の割れ目がやや多く分布するが、コアは硬質である。割れ目に挟在物は分布しない。 104.15~104.26m: 傾斜65°の割れ目が2cm間隔で分布し、一部で径1~2cmの岩片状となる。粘土は付着しない。 104.26~104.90m: 傾斜65°の割れ目が卓越する。微細な割れ目はハンマーの強打で分離しない。 104.82~104.88m: 傾斜45~70°で幅2~5mmの石英脈を2条挟む。 104.90~105.30m: 傾斜10~30°と60~80°の割れ目が交差し、全体に割れ目が多い。割れ目の一部にマンガンが付着し、岩片状コアを主とする。	

標尺	標高	深度	柱状	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	記号	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D cm L [%]	岩級区分	孔内水位(測定月日)	(標準貫入)試験					原位置試験(孔内水平基準)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(L/分)	排水量(L/分)		
													(N値~深度) 図																	
106							IVg IIIg IVg	γ	105.30~105.93m: 割れ目が少ない硬質コアで微細な割れ目も少ない。 105.54m: 傾斜20°で幅10~15mmの暗緑灰色脈が、傾斜80°で幅1mmの石英脈でズレているように見えるが、ズレの量は各境界で一致しない。破碎や変質は伴わない。 105.84m: 傾斜35°で幅3mmの石英脈を挟む。 105.93~106.22m: 傾斜85°と10°の割れ目が交差し、一部岩片状を呈する。粘土は付着しないが、傾斜80°の割れ目にはマンガンを付着する。 106.22~109.06m: 割れ目が少ない硬質コアからなる。 106.55m: 傾斜60°で幅0.5mmの石英脈を挟む。 106.80m: 傾斜10°の割れ目沿いが、上部割15mm、下部割25mmでマンガンの鉱染により暗灰色化するが、岩盤の劣化は見られない。 106.92m: 傾斜35°で幅2~4mmの固結した白色鉱物脈を挟む。 107.03~107.61m: 傾斜30~50°の3条の割れ目沿いにマンガンの鉱染が見られる。									8/24				86 泥水			68.0	100	0.1	泥水2	0	
107						Bg bg	β	2	107.74~107.80m: 2条の傾斜70°の割れ目が分布し、割れ目沿いに一部で径1~2cmに砕けている。粘土は伴わない。 108.53m: 傾斜35°と55°の割れ目が交差し、割れ目沿いの一部で径0.5cmの小岩片化する。粘土は伴わない。																					
108						IIIg																								
109						IVg Cg Bg			109.06~109.66m: 傾斜10~20°の割れ目が2~8cm間隔で平行に分布する。他、微細な割れ目も発達する。傾斜80°の割れ目との交差部では一部径1~2cmに岩片化する。粘土は伴わない。 109.66~109.90m: 傾斜65~70°の微細な割れ目が5~10mm間隔で密に分布する。一部でマンガンを付着する。 109.90~111.24m: 傾斜50~55°の割れ目が2~10cm間隔で平行に分布する。																					

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)													
															0	10	20	30	40												50												
111			* * * * *	ア プ ラ イ ト	褐 灰	Cg	IVg	bg	β	2	110.65m : 傾斜50° で幅4mmの石英脈を挟む。 110.69m : 傾斜50° の割れ目沿いに黄鉄鉱が晶出する。	0	CM'										8/25																				
112																				111.24~111.55m : 傾斜45~60° の割れ目が1~5cm間隔で見られる。一部の割れ目周辺にマンガン鉱染が見られる。 111.55~112.50m : 柱状コアを主とするが、傾斜30~60° の微細な割れ目が卓越している。 111.79mに傾斜55°、111.85mに傾斜60° の割れ目が見られる。いずれも幅0.5mmのマンガンを挟む。	24	CH'																					
																				112.50~112.72m : 傾斜30~60° の割れ目が2~5cm間隔で見られ、岩片状~礫状コアを呈する。 112.72~112.99m : 柱状コアであるが、傾斜45~75° の微細な割れ目が卓越している。	27																						
113											113.31~113.34m : 傾斜40~50° の割れ目周辺が鋭角礫状を呈する。 113.34~113.63m : 傾斜20~45° の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。また、傾斜90° の鉛直割れ目も見られる。 113.73mに傾斜50°、113.83mに傾斜50°、113.91mに傾斜60° の割れ目が分布する。いずれも割れ目周辺が灰色に変色している。	12	CM'																														
114											114.14mに傾斜60°、114.42mに傾斜65° の割れ目が分布する。面にマンガン鉱染が見られる。 114.71~115.26m : 傾斜45~60° の割れ目とそれと交差する傾斜80~90° の割れ目により、コアは岩片状を主とする。	10	CL'																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N値)	(図)														
116			[Pattern]	アブライト		褐灰		Vg	cg	2					0	50													
															7	100													
															8	100													
															9	100													
117			[Pattern]	アブライト		褐灰		Dg	Vg	dg	γ	3										ダブルコアチューブ / ダイヤモンドビット	86 / 泥水	100	0.1	泥水	0		
																												14	100
																												14	100
118			[Pattern]	アブライト		褐灰		Vg	cg	2																			
																											14	100	
																											14	100	
119			[Pattern]	アブライト		褐灰		Dg	Vg	γ	3																		
																											14	100	
																											14	100	

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記	コ	ア	探	取	率	岩	級	区	分	標準貫入					原	室	掘	掘	孔	コ	給	回	送	送	排						
																				試験																位置	内	進	径	ア	回
(m)	(m)	(m)	図	分	調	状	化	質	事	事	取	取	取	取	(%)	級	区	分		(N値~深度)	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験							
121										120.38~120.67m: 有色鉱物が濃集し、灰色を呈する。 120.67~122.58m: 傾斜45~60°の割れ目が1~15cm間隔で発達し、それに伴う微細な割れ目が約0.5~1cm間隔で発達する。割れ目が交差する部分でコアは岩片状となる。 120.95~121.08m: 中角度の割れ目に黄鉄鉱が晶出。 121.10~121.20m: 短い筋状のマンガンが不規則に分布する。	0	50	100																												
122				褐灰						121.56~121.68m: 傾斜約65°の潜在割れ目が発達し、変質がやや明瞭である。明褐色を呈する。 121.68m: 傾斜65°の割れ目に沿って幅1~2mmが緑灰色を呈する。 122.05~122.25m: 短い筋状のマンガンが不規則に分布する。 122.28m: 傾斜45°の割れ目周辺が変質し、岩片状を呈する。	0	50	100																												
123				アブライト						122.58~122.87m: 傾斜約40~60°の割れ目及び微細な割れ目が発達し、岩片状~細線状を呈する。 122.65~122.79m: 傾斜45~60°の割れ目が発達し、岩片状を呈する。 123.10~124.33m: 明瞭な割れ目は傾斜60°程度で、微細な割れ目も発達し、亀甲状を呈する。上下位に比べて軟質で、傾斜60°の割れ目に沿って細片化する。割れ目沿いには軽微な変質が見られるが、岩芯は概ね新鮮である。 123.36m、123.58m、123.72m、123.92m、124.14m付近は割れ目沿いに岩盤が劣化し、細片化・細粒化する。	0	50	100																												
124										124.33~124.77m: 鉛直方向の割れ目に沿って幅10mm程度にわたり、変質作用を受け暗緑灰~緑灰色鉱物が見られる。黄鉄鉱も伴う。鉛直方向の割れ目と同方向に伸長する微細な割れ目も見られ、割れ目の一部に暗緑灰色の変質鉱物が見られる。 124.77~124.95m: 上下位に比べて変質作用による岩盤の劣化は軽微であり、やや硬質となる。 124.95~125.00m: 傾斜65°の割れ目に沿って緑灰色の変質鉱物が見られる。全体に褐色を帯びる。上下位に比べて軟質となる。	0	50	100																												

標尺	標高	深度	柱状	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ ノズル	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水 (MPa)	送水量 (L/分)	排水 (L/分)							
												(%)	最大コア長 cm			(N値~深度) 図	(N値)																		
126				アフライト 褐灰	Dg VIg		δ	3			125.08~125.23m: 脱色し、赤色を帯びる。岩自体は上位に比べて硬質となる。 125.23~128.25m: 傾斜10~30°の微細な割れ目が優勢であるが、傾斜60~80°の割れ目も発達して、これらが交差し、塊状コアを主とする。割れ目に沿って変質し、暗緑~暗緑灰色を呈するが、岩芯は概ね新鮮である。 125.49~125.58m: 岩片状を呈する。 125.90~126.14m: 岩片状を呈する。 126.22~126.86m: 幅広く割れ目沿いの岩盤劣化が見られ、全ての割れ目に暗緑灰色の変質鉱物が付着する。	0	50	100											130	8/28	120	ダブルコアチューブ/ダイヤモンドビット	86 / 泥水	80.0	100	0.1		泥水	0
127				アフライト 褐灰	Cg VIg		cg	γ			126.86~128.25m: 割れ目沿いの変質作用は軽微となる。 127.42~127.77m: 上下位に比べて割れ目沿いの岩盤劣化を受け、細片化する。割れ目の汚染は軽微である。一部に細片状のスライムを含む。	0	50	100																					
128	70.57	128.25		コア欠如							128.25~129.07m: 試料落下。128.25~128.70mは再採取したコア。 128.25~129.07m: コア欠如、細片状のスライムとして採取。	0	50	100																					
129	71.15	129.07		アフライト 褐灰	Cg VIg		cg	γ			129.07~129.74m: コアは長さ5~10cmの短柱状を呈するが、各コア中に1~2cm間隔で傾斜10~30°の低密着割れ目が存在し、ハンマーの軽打で細片化する。 129.50~129.53m: 傾斜60°、幅2cmでやや軟質化する(硬さ「D」)。径1~2cmの角礫や幅1mmの波打って連続する暗緑灰色の細脈を含む。下端の129.53mの傾斜60°の割れ目に幅0.5~2mmのマンガンが付着する。 129.74~132.03m: 径1~3cmの細片状コアを呈する。細片化した岩片自体は硬い。岩片は傾斜10~30°と60~90°の割れ目をもつ。 129.74~131.10m: 割れ目の一部に径1~2mmの暗緑灰色の変質鉱物を伴う。粘土化はしていない。 129.85~130.31m: コア欠如、細片状のスライムとして採取。	0	50	100																					
	71.70	129.85		コア欠如																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・rpm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
																() 図																
131	-72.02	130.31	[Symbol]	コア欠如										CL'		0	10	20	30	40	50			8/29	50							
		-72.21		130.57	アブライト	褐灰	Cg	Vg	cg	γ	2	130.57~132.03m: コア欠如。 細片状のスライムとして採取。																				
132	-73.24	132.03	[Symbol]	コア欠如										CL'																		
	-73.91	132.98	[Symbol]	アブライト	灰赤	Dg	Vg	cg	γ	3	132.03~132.10m: 上端30°, 下端65°の割れ目で固まれ、全体に割れ目周辺の粘土化が進み、軟質化する。																					
133	-74.14	133.30	[Symbol]	コア欠如										CL'																		
	-74.56	133.90	[Symbol]	アブライト		Eg	Vg	cg	γ	3	132.98~133.30m: コア欠如。 細片状のスライムとして採取。																					
134	-74.77	134.20	[Symbol]	コア欠如	灰褐									D'									9/12	60		ダブルコアチップ / タイヤホイールコンクリート	56.0	100	0.1	泥水 ²	0	
		-75.18	134.77	アブライト		Eg	Vg	cg	γ	3	133.30~133.38m: 概ね径1cm以下の角礫状を呈する。風化による軟質化はない。 ●133.38~134.77m: 破砕部 133.38~133.40m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜73°で幅6~12mmの明緑灰色の軟質粘土。礫は含まない。 133.40~133.64m: 角礫質粘土状部 (Hb) 上端75°, 下端40°の幅1mmの白色の軟質粘土で固まれる。径1~2cmの花崗斑岩の軟~硬質礫を50%以上含む。基質は灰白~明緑灰色の軟質粘土。 133.64~134.77m: 粘土混じり角礫状部 (Hj) 上端40°, 下端傾斜不明。傾斜10~30°と傾斜55~70°の割れ目や低密着割れ目が概ね0.1~2cm間隔で分布し、割れ目間を灰白色の軟質粘土が幅1~3mmで各割れ目に付着~脈状で分布する。灰褐色を呈する。 133.90~134.20m: 径1~2cmの角礫状コアで、ボーリング掘削時に擾乱したものである。上端40°, 下端不明瞭 (スライム)。 134.77~135.00m: コア欠如。 細片状のスライムとして採取。																					
	-75.34	135.00	[Symbol]	コア欠如										D'																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														0	10	20	30	40												50		
	-75.54	135.28		アブライト	灰褐	Dg Vg cg	γ 2			135.00~135.28m: 変質作用による岩盤劣化部で、亀甲状の割れ目が見られる。一部、硬さの硬質部が残存するが、下位の岩盤に比べて軟質である。 135.24m: 傾斜40°で幅6~12mmの暗緑灰色の変質帯が見られる。上端側は下層側に比べて岩盤が劣化する。135.28~137.57m: コア欠如。細片状のスライムとして採取。	CL'							9/12	60													
	-77.16	137.57		アブライト	灰赤	Cg Vg cg	γ 2			137.57~137.82m: 傾斜40~60°程度の割れ目を主体とし、一部岩片状を呈する。 137.82~138.27m: コア欠如。細片状のスライムとして採取。	CL'							9/22	90													
	-77.33	137.82		アブライト	褐灰	Vg cg	γ 3			138.72m: 傾斜70°の割れ目に暗緑灰色を呈する鉱物が不規則・不連続に付着する。 138.72~140.61m: 割れ目間隔は1cm前後で、微細な割れ目が発達する。微細な割れ目は亀甲状を呈する。変質作用により一部白濁化する。上位に比べて軟質となる。割れ目は傾斜30~50°が主体である。	CL'									11/15												
	-77.65	138.27		アブライト		Cg																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験				原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																											
																図																																									
																0	10	20	30												40	50																									
141				アブライト				Dg	γ	140.19~140.23m: 傾斜55°程度の割れ目に暗緑灰色の鉱物が付着し、140.30m付近まで白濁し軟質となる。	0	50	100																																												
	142	Dg								3	140.61m: 傾斜45°の割れ目に幅0.5mの暗緑灰色の鉱物を挟み、上端側は岩盤が劣化し、細粒化・細片化する。140.61~141.13m: 上位に比べて、脱色や白濁化の変質作用は軽微となる。140.68~140.82m: 上下位に比べて微細な割れ目が少なく、硬質となる。																																														
	142	Viε								dg		141.50~141.70m: 暗緑灰色鉱物が濃集し、硬さEの軟質部を形成する。原岩組織をほとんど残さない。																																													
												143																																													
	144	Viε	cg	142.00~142.50m: 鉛直の割れ目が一部不連続に分布する。																																																					
											143	Dg																							2	142.71~142.85m: 傾斜45~70°の割れ目周辺が岩片状を呈する。																					
	144	Viε	cg		143.31~143.33m: 傾斜45°、傾斜50°の割れ目間に変質して灰色を帯びている。143.34~144.00m: 変質作用による岩盤の劣化はほとんど見られず、微細な割れ目が1~3cm間隔で分布する。傾斜10~20°程度の割れ目を主体とする。																																																				
					144						Dg	γ																							144.00m: 傾斜60°の割れ目に幅0.5m程度の赤灰色鉱物を挟む。144.00~144.32m: 不規則に微細な割れ目が見られ、割れ目間隔は1cm程度である。割れ目沿いに白濁し、軟質となる。144.32~144.67m: 微細な割れ目が不規則に見られる。割れ目間隔は1~3cm程度であり、変質作用による岩盤の劣化は軽微で硬質となる。																						
	144	Dg	γ			144.67~145.17m: 変質作用により、赤色を帯び、緑灰色の鉱物が見られる。微細な割れ目が不規則に見られ、割れ目間隔は1~3cm程度となる。																																																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定日	標準貫入 () 試験					原位試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
															() 図 N 値 ~ 深度															
				アブライト	赤灰						145.12~145.77m: 不規則な微細な割れ目と傾斜70~80°の割れ目が斜交する。割れ目間隔は1~3cm程度である。											11/17	90		ダブルコアチューブ / ダイアモンドビット	40.0	100	0.1	泥水 ²	0
146		Cg									145.77~146.62m: 部分的に変質作用を受け、暗緑灰色の鉱物脈及び斑晶が見られる。岩自体は硬質である。微細な割れ目及び傾斜40~60°程度の割れ目が見られる。割れ目間隔は1~3cm程度となる。																			
		Dg									146.62~146.78m: 不規則に微細な割れ目が見られ、白濁し、上下位に比べて軟質となる。割れ目間隔は1cm程度である。																			
147		Vg cg β 2									146.78~149.10m: 変質作用による岩盤の劣化は軽微であり、岩芯は比較的新鮮である。割れ目には明緑灰色の変質鉱物が付着する。一部不規則な微細な割れ目が見られ、割れ目間隔は1~4cm程度となる。傾斜5~20°の低角度割れ目が発達する。微細な割れ目は傾斜50~70°が主体である。																			
148		Cg									147.70~148.10m: 鉛直割れ目に明緑灰色の変質鉱物を挟む。																			
149		Dg Vi dg γ 3	149.10~149.25m: 傾斜10°程度の微細な割れ目が発達し、割れ目間隔は0.5~1.0cm程度となる。一部、原岩組織が消失し、割れ目として認識できない。																											
	-85.95	150.00				Cg Vg cg β 2					149.25~150.00m: 微細な割れ目が不規則に見られ、割れ目間隔は1~3cm程度となる。割れ目沿いに細粒化が見られる。岩自体は硬質となる。																			

孔番 :H24-B14-1

深度 0.00m ~ 18.00m

孔口標高 20.12m



孔番 : H24-B14-1

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 20.12m



孔番 : H24-B14-1

深度 36.00m ~ 54.00m

孔口標高 20.12m



孔番 : H24-B14-1

深度 54.00m ~ 72.00m

孔口標高 20.12m



孔番 : H24-B14-1

深度 72.00m ~ 90.00m

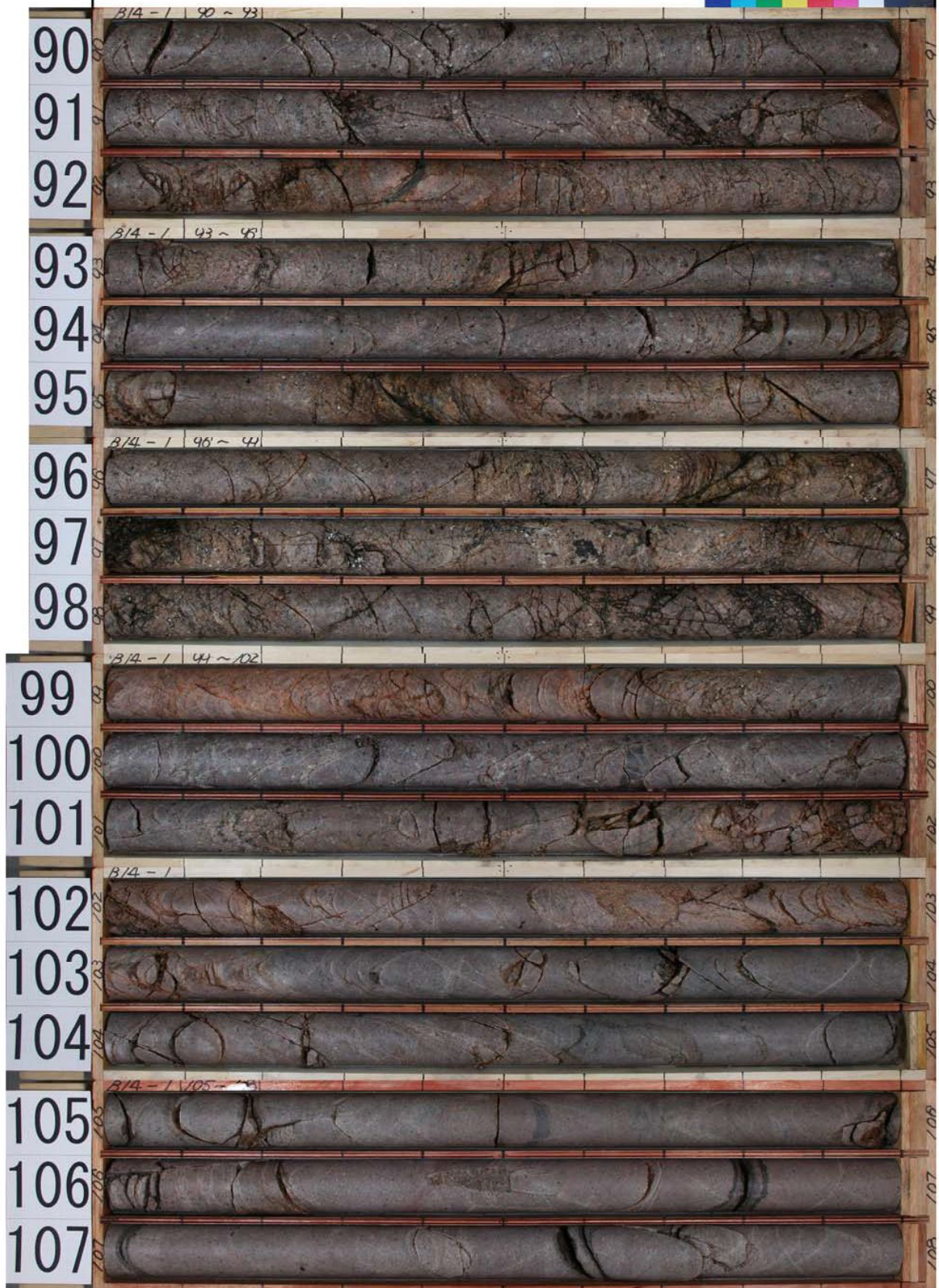
孔口標高 20.12m



孔番 : H24-B14-1

深度 90.00m ~ 108.00m

孔口標高 20.12m



孔番 : H24-B14-1

深度 108.00m ~ 126.00m

孔口標高 20.12m



孔番 : H24-B14-1

深度 126.00m ~ 144.00m

孔口標高 20.12m



孔番 :H24-B14-1

深度 144.00m ~ 150.00m
孔口標高 20.12m



余白

H31-R-2'

余白

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給転圧 (kN・MPa)	回轉数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
													(N値~深度) 図																			
21	10.54	24.72		花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	20.23~20.49m: 変質部で角礫状を呈するが、原岩組織は残留する。上端・下端とも漸移的である。20.37mに傾斜53°で幅3mm以下の軟質な褐色シルト~粘土を挟む。	18																						
22				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	22.45~22.50m: 変質部で角礫状を呈するが、原岩組織は残留する。マンガン汚染が顕著に見られる。																							
23				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	22.65~22.71m: 変質部で砂混じり角礫状を呈するが、原岩組織は残留する。上端81°、下端70°。褐色化を呈し、灰白色のシルトが網目状に分布する。																							
24				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	24.72~25.00m: アブライトである。径2~10mm程度の石英・長石の斑晶を5%程度含む。花崗斑岩とは漸移的である。																							
25				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	25.32~25.57m: 砂礫状コアからなる。																							
26				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	25.63~25.75m: ベグマタイトを挟む。径20mm程度の石英、カリ長石からなる。																							
27				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	●27.43~27.48m: 破砕部																							
28				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	27.43~27.44m: 灰白色粘土状部(Hc-1)。幅3mm程度で軟質。上端69°で直線的。																							
29				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	27.44~27.48m: 粘土混じり角礫質砂状部(Hb)。やや軟質であるが原岩組織は残留する。灰白色を呈する。幅15mm、下端に傾斜74°で幅0.5mmの明赤灰色粘土を伴う。																							
30				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	27.93m: 傾斜75°で幅5~10mm程度の灰白色シルト~粘土を挟む。境界は凹凸がある。																							
31				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	28.70~29.51m: 変質部で砂混じり角礫状及び粘土・砂質角礫状を呈し灰白色粘土が網目状に分布する。軟質であるが、原岩組織は残留する。上端69°、下端60°																							
32				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	29.91~30.33m: 砂礫状コアからなる。																							
33				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	30.33~30.57m: 不規則な割れ目が発達し、角礫状を呈する。																							
34				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	30.54~31.86m: 高角度の深打った割れ目に幅10mm以下の灰黄色砂質シルトを挟む。																							
35				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	33.00~34.00m間に傾斜70°程度で幅1~12mm程度の橙色砂質シルトを複数挟む。																							
36				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	35.11~36.17m: 割れ目沿いにマンガン汚染が多く見られる。																							
37				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	36.17~36.42m: 不規則な割れ目が発達し、砂混じり角礫状を呈する。																							
38				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	37.36~37.46m: 幅50mm以下で橙色砂礫質シルト状を呈する。上端61°、下端59°。上端には幅2mm程度の軟質な褐色シルトを伴う。																							
39				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	38.32~38.74m: 不規則な割れ目が発達し、角礫状を呈する。38.69m以下は灰白色粘土が網目状に分布する																							
				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	●39.00~39.83m: 破砕部																							
				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	39.00~39.27m: 粘土・砂質角礫状部(Hb)。灰白色を呈し、灰白色粘土が網目状に分布する。原岩組織は残留する。やや軟質。上端はコア端部で不明、下端53°で幅1mmの軟質な淡黄色粘土を伴う。																							
				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	39.27~39.52m: 砂質角礫状部(Hj)。下端73°で凹凸あり。明赤灰色を呈する。全体にマンガン汚染している。原岩組織は残留する。やや硬質。																							
				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	39.52~39.67m: 粘土・砂質角礫状部(Hb)。灰白色を呈し、灰白色粘土が網目状に分布する。原岩組織は残留する。やや軟質。下端54°で幅1mmの軟質な赤褐色粘土を伴うが、粘土は不連続である。																							
				花崗斑岩	明赤灰	IVg	γ	2	39.67~39.83m: 砂混じり角礫状部(Hj)。割れ目が発達し、角礫状を呈する。原岩組織は残留する。やや硬質。下端70°。明赤灰色を呈する。																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															0	10	20	30	40												50				
											40.17~40.35m: 不規則な割れ目が発達し、砂混じり角礫状を呈する。上端72°で幅1mmの灰白色粘土を不連続に伴う。下端は漸移的である。40.77~41.00m: 砂混じり角礫状を呈する。	3 (0)	D'																						
41												4	CL'																						
42											41.15~41.87m: 不規則な割れ目が発達し、砂混じり角礫状を呈する。割れ目には灰白色粘土及びマンガン汚染を伴う。上端62°で幅2~4mmの膨縮する灰白色粘土を伴い、下端55°で幅2mmの灰白色粘土を伴う。	4 (0)	D'																						
43												5 (0)	D'																						
44											42.16~42.94m: 中~高角度割れ目が発達し、砂混じり角礫状を呈する。割れ目に灰白色粘土を挟む。	6 (0)	CL'																						
45											44.40~45.58m: 不規則な割れ目が発達し、砂混じり角礫状を呈する。所々、灰白色粘土を挟む。	7 (0)	D'																						
46												8 (0)	CL'																						
47											46.22~47.02m: 砂混じり角礫状及び粘土・礫質砂状を呈する。全体に灰白色粘土が網目状に分布する。	9 (0)	D'																						
48												10 (0)	D'																						
49											48.76~48.90m: 淡橙~灰白色を呈し、不規則な形状のシルト状部を伴う。やや硬質。	11 (0)	CL'																						
50											49.76~50.10m: 不規則な割れ目が発達し、砂混じり角礫状を呈する。マンガン汚染が顕著に見られる。	12 (0)	D'																						
51											50.26~50.28m: 傾斜62°で幅3~8mmの石英脈及びマンガン濃集部を3条挟む。	13 (10)	D'																						
52											50.73~54.71m: 不規則な割れ目が発達し、主に粘土・砂混じり角礫状を呈する。灰白色粘土を網目状に伴い、一部にマンガン汚染も見られる。	14 (0)	D'																						
53												15 (0)	D'																						
54											53.94~54.03m: 傾斜74°で幅40mm程度の石英脈を挟む。マンガン汚染が見られる。53.98mには、傾斜74°で幅3mmの軟質な灰黄色粘土を挟む。	16 (0)	D'																						
	31.95	55.00										17 (0)	D'																						

孔番 : H31-R-2'

深度 : 0.00m ~ 18.00m



孔番 : H31-R-2'

深度 : 18.00m ~ 36.00m



孔番 : H31-R-2'

深度 : 36.00m ~ 55.00m



余白

H24-D1-3

余白

ボーリング柱状図

調査名 XXXXXXXXXX
 事業・工事名 XXXXXXXXXX

ボーリングNo.									1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	---

ボーリング名	H24-D1-3		調査位置	X:257.570 , Y:898.500		北緯	35° 45' 12.41"			
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2013年 5月14日 ~ 2013年 6月5日			東経	136° 1' 3.72"	
調査業者名	[Redacted]		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	6.90 m	角		方位		地盤勾配		使用機種	試験機	ハンマー
総掘削長	60.00 m	度							エンジン	ポンプ

標尺 (m)	柱状図	岩種区分	色	硬軟	割れ目の状態	変化	記 事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D [%]	岩級区分	試験 (標準貫入)		原位置試験 (孔内水平直差)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
												(N値~深度)	図													
0			黒褐				0.00~9.84m: 盛土 U.UU~0.18m: 礫 径5~20mmの黒色砂岩からなる。 0.18~3.57m: 礫混じり粗砂 径10~50mmの花崗斑岩, アブライト の亜角礫を含む粗粒砂でルーズである。 礫は殆んどが硬質である。径3~10mmの 黒色砂岩も多く含む。																			
1																										
2			盛土	に い い 褐																						
3																										
4			コア欠如 灰褐				3.67~4.00m: スライム ほぼ均質な中粒砂で、ルーズである。 3.96m以深では若干シルト分を含む。 4.00~4.49m: 礫・シルト混じり中砂 径2~5mmの石英粒, 長石粒, 径5~20mm の花崗斑岩, アブライト, 黒色砂 岩片を含む。若干のシルト分を含む。 ルーズである。4.00m, 4.15m, 4.30m 付近に木片を含む。 4.49~6.00m: 礫混じり粗砂 径2~5mmの石英粒, 長石粒, 径5~10 0mmの花崗斑岩, 黒雲母花崗岩, アブ ライトの亜角礫を含む。ルーズである。 礫は殆んどが硬質。稀に黒色砂 岩の礫も含む。 4.49m, 4.65m付近に径70~100mmの黒 雲母花崗岩, 花崗斑岩の亜角礫を含む。																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														0	10	20	30	40												50								
6	2.66	6.00	盛土	盛土	にぶい黄褐色					5.00~5.10m: 礫は孔壁から落下したコアである。 5.12m: 木片を含む。 5.25m付近に黒色の砂岩を含む。 5.70m: 径3~4mmの黒色砂岩片数個が点在する。	D'																											
	2.38	6.39																																コア欠如	にぶい黄褐色			
7	1.67	7.40	盛土	盛土	にぶい黄褐色					6.00~6.39m: スライム中砂からなる。所々、粗砂を含み、やや不均質でややルーズ。 6.25~6.27m: 径2~3mmの黒色砂岩片を含む。 6.39~7.40m: 砂礫礫は径2~5mmの石英粒、径、5~120mmの硬質な花崗斑岩の垂角~垂円礫からなり、礫率30~40%程度。基質は締まった粗砂からなる。 7.00m: 径30mmの黒雲母花崗岩の半クサリ礫を含む。 7.20~7.25m: 礫は孔壁から落下したコアである。	D'																											
	1.42	7.75																																			コア欠如	にぶい黄褐色
8	0.97	8.38	盛土	盛土	にぶい黄褐色					7.40~7.75m: スライム中砂からなる。所々、粗砂や硬質礫を含み不均質。全体がややルーズである。 7.75~8.38m: 礫混じり砂径2~10mmの黒雲母花崗岩、花崗斑岩の礫を含む細~中砂からなる。	D'																											
	0.73	8.73																																			コア欠如	灰黄褐色
9	0.54	9.00	盛土	盛土	にぶい黄褐色					8.38~8.73m: スライム 8.38~8.60m間は径10~30mmの花崗斑岩の硬質な垂角礫主体で、8.50mに径20mmの黒色砂岩礫も含む。8.60~8.73m間は中砂からなる。 8.73~9.00m: 中砂やや不均質である。若干のシルトと小礫を含む。ややルーズである。 9.00~9.75m: スライム中砂からなる。9.66~9.75mには花崗斑岩の礫を含む。 9.35m付近に径5~10mmのモルタル片を多く含む。	D'																											
	0.01	9.75																																				
	-0.06	9.84	盛土	花崗斑岩	灰黄褐色					9.75~9.84m: モルタル砂岩状を呈する硬質モルタル。基盤岩と傾斜55°で採している。 9.84~60.00m: 花崗斑岩斑岩は径1~5mmの石英、径1~7mmの長石からなる。 9.84~10.77m: 著しく軟質化し、割れ目はほぼ消滅する。原岩組織は残留する。径10mm前後の大型の長石斑晶を多く含む。粘土化部や粘土脈は分布しない。消滅しかかった傾斜40~60°の割れ目が残存することがある。																												

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														N	値																			
		-0.50 -0.52		花崗斑岩		Eg VIg dg δ 2				10.47~10.50m: スライム 礫混じり砂質シルトからなる。		D'																						
11				明褐色 花崗斑岩		VIg dg Eg VIg cg δ 2				10.77~12.00m: 著しく軟質化するが、割れ目の大半は残留する。また、原岩組織も明瞭である。割れ目は傾斜40~60°と、これと斜交し直交する50~70°の2系統が見られ、割れ目とその周辺が風化で砂状化する部分もある。割れ目の一部はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。粘土脈は殆んど挟まない。		D'																						
12		-1.59 -1.68								11.90m: 傾斜45°の消滅しかかった割れ目沿いに断片的に緑泥石化により緑灰色化する。 12.00~12.13m: スライム シルト質砂からなる。 12.13~13.03m: 原岩組織や割れ目の大半は残留するが、コア全体が著しく軟質化する。傾斜30~40°の割れ目と低密着割れ目主体で、一部で60~70°の割れ目と斜交する。各割れ目沿いは砂状化する。一部はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。粘土脈は1~3mmの緑灰色粘土が網状に分布し、12.17m以深は割れ目の一部に幅1mm前後の粘土脈を挟む。いずれも軟質な粘土である。 12.57~12.61m: 上端45°、下端35°で緑泥石化により緑灰色を呈する。中央部に幅1~2mmの軟質な淡緑灰色粘土を伴う。 13.03~13.32m: やや硬質で割れ目はマンガン鉱染を受ける。 13.32~13.47m: 風化で砂状化している。 13.47~13.94m: 傾斜50°の割れ目が平行に複数分布する。岩片はやや軟質化するが、砂状化や粘土の挟在はない。一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。 ●13.94~14.06m: 破砕部 (H-3d破砕帯) 13.94~13.98m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端60°、下端55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの粘土化した岩片主体で、岩片間の黒質 (砂主体) はマンガン鉱染で黒化する。淡黄色を呈する。幅20~30mm。 13.98~14.00m: 粘土状部 (Hc-1) 上端55°、下端60°でともに直線的でシャープに連続。径1mm前後の石英粒を含む。軟質。淡黄色を呈する。幅10mm。 14.00~14.03m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端60°で直線的にシャープに連続。下端55°で凹凸している。径1mmの石英粒と径5mm前後の花崗斑岩の岩片を多く含む。硬質。淡黄色を呈する。幅20mm。 14.03~14.06m: 粘土状部 (Hc-1) 上端55°、下端60°で直線的に連続。軟質。淡黄色を呈する。幅10~15mm。 14.06~14.41m: 原岩組織は残留するが、割れ目は大半が消滅する。残留する14.30mの傾斜60°の割れ目のほか、岩片間を縫うように幅1~2mmの軟質な白~明黄褐色粘土が分布する。 ●14.41~14.52m: 破砕部 (H-4破砕帯) 14.41~14.47m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端40°、下端60°でともに直線的でシャープに連続。大半が粘土化する。灰白~にぶい橙色を呈する。幅20~30mm。 14.47~14.48m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端60°で直線的にシャープに、下端60°で波打って連続。径1~2mmの石英粒。径2~3mmや長さ5~10mm、幅2~3mmの扁平な花崗斑岩の礫を含む。軟質。灰白色を呈する。幅15~18mm。 14.48~14.52m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端60°、下端60°でともに直線的でシャープに連続。約60°の割れ目沿いに幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む風化岩片からなる。明黄褐色を呈する。幅20mm。 14.52~22.47m: 比較的割れ目が少ない。16.48~20.08mと21.75~22.47m間は風化が弱い。これを除く区間はやや風化が進み軟質化する。全区間で粘土化や粘土脈の分布は少なく、硬質は弱い。割れ目は傾斜10~40°が主体で、部分的にこれに交差する60~80°の割れ目や低密着割れ目が認められる。																								
13				にぶい黄橙 花崗斑岩		Eg VIg dg Cg Vg cg Eg VIg dg Dg IVg cg δ 2						D'																						
14				にぶい橙 花崗斑岩		Eg VIg dg Eg VIg dg Dg IVg cg δ 2						D'																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
														(N 値 ~ 深度) 図																	
		16	花崗斑岩	にふい橙	Dg	cg	δ			16.17~16.28m: 割れ目沿いに風化・砂状化が進み、径10~30mmの礫状コアを呈する。	0	CL'																			
		17									灰褐																				Bg
		18		明褐灰	IVg			2		γ	18.05~21.00m: 割れ目沿いに薄くマンガン鉱染を受ける。	13	CM'																		
		19										Cg																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進 掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)														
													0	10	20	30	40												50													
			+																																							
		21	+						20.77m : 傾斜50° で幅1~2mmの明黄褐色の軟質粘土脈を挟む。粘土脈の上・下はマンガン鉱染で黒褐色化する。 21.00~22.30m : 傾斜40~60° の割れ目。低密着割れ目がほぼ平行に分布する。粘土脈の挟在はないが、風化で薄く砂状化する割れ目もある。 21.18m・60°・21.61m・48° に幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布するが、後者の石英脈は直交する傾斜55° の割れ目で止まっている。	10 [10]																																
		22	+						22.28m : 傾斜58° の割れ目周辺幅1cmが緑泥石化により淡緑灰色化する。径1mmの白雲母を伴う。 22.47~23.77m : 割れ目は少なくなり、やや硬質~硬質部からなる。傾斜50~60° の割れ目が主体で、やや硬質の区間では、割れ目の一部はごく薄く砂状化するが、硬質の区間では砂状化は見られない。割れ目に粘土脈は挟まない。 22.77m : 傾斜55° の割れ目は交差する割れ目を止めている。一部、細かいマンガン汚染の筋が横断する。割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 22.78~23.40m : 径2~3mmの黒雲母の斑晶が目立つ。	13 [38]																																
		23	+							23																																
		24	+						23.77~24.94m : 互いに斜交~直交する傾斜50° 前後の割れ目が主体である。風化で割れ目の一部は薄く砂状化することがある。粘土化部や粘土脈は分布しない。	23 [44]																																
			+						24.94~25.29m : 上位に比べ割れ目が多くなり、割れ目沿いに薄く砂状化することが多い。	26 [66]																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)															
																	0	10	20	30	40												50														
31			花崗斑岩	明褐色	にぶい黄緑	Dg	Vg	cg	2	6	3	30.24m: 傾斜60°で幅2mmの褐色の硬質な粘土を断片的に挟む。上端側幅5mmにマンガン濃染部を伴う。	5 (0)	100	CL'																																
32																					30.74m: 傾斜80~85°で湾曲した割れ目と30.85mの傾斜55°の割れ目で囲まれた部分は層面より風化が進み砂状化する。 30.85m: 傾斜55°の割れ目は風化でにぶい黄緑色の幅1~2mmの軟質粘土脈を挟む。	5 (0)	100																								
33																						32.30m: 傾斜60°の割れ目は幅1mmのにぶい黄緑色の軟質粘土脈を挟み、交差する傾斜30°の割れ目を止めている。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 32.63m: 傾斜55°の割れ目は幅1~2mmの褐色の軟質粘土脈を挟むが、不連続である。これと直交する傾斜45°の割れ目を止めている。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 32.63~33.00m: 割れ目は残留する。 33.00~33.30m: 割れ目、低密着割れ目に沿ってマンガン鉱染で黒褐色化する。	7 (0)	100																							
34																						33.30~34.23m: 原岩組織と割れ目はほぼ消滅する。全体に傾斜40~50°で幅1~8mmの軟質なにぶい黄緑色粘土脈が分布する。 33.40~34.23m: 傾斜40~50°の割れ目及び低密着割れ目の一部がわずかに残留し、その一部は幅1~2mmで軟質なにぶい黄緑色の粘土脈を挟むことが多い。 33.91m: 傾斜32°で幅2~8mmの径1~2mmの石英粒や径5mmの風化~粘土化した岩片を含むやや硬質な灰黄色粘土脈が分布する。 34.17~34.23m: マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。 ●34.23~34.52m: 破砕部 (D-1破砕帯) 34.23~34.39m: 粘土混じり岩片状部 (H) 34.39~34.40m: 下層55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの粘土化~硬さDの岩片と岩片間を幅1~2mmの灰黄色の軟質粘土が網状に分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。灰黄~灰黄褐色を呈する。また、34.30mには傾斜30°で幅1~2mmのやや軟質な灰黄色粘土脈を伴うせん断面がある。 34.39~34.40m: 粘土状部 (Ho-1) 傾斜55°で直線的にシャープに連続する。径1mmの石英粒を含む。軟質。白色~灰黄色を呈する。幅5~7mm。 34.40~34.52m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上層55°、下層55°でともに直線的でシャープに連続。径5~10mmの硬さDないし粘土化した岩片が主体である。岩片は岩組織が消えている。岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質な粘土が分布する。岩片はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に灰黄褐色を呈する。 34.52~35.81m: 傾斜30~60°の割れ目、低密着割れ目が多い。35.14~35.27mでは傾斜40°前後の割れ目が10~20mm間隔で平行に分布し、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。各割れ目には幅1~3mmの軟質な白色~灰黄色粘土脈を挟むことが多い。 34.60m: 傾斜60°で幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。 34.80~34.95m: マンガンや灰白色粘土が網目状に分布する。	2 (0)	100	D'																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																
													(N 値)	(N 値)	(N 値)	(N 値)	(N 値)																											
		36	+	花崗斑岩	明褐色	Dg Vg			35.81~36.53m: 一部、硬質部も含み全体がやや硬質である。傾斜40~60°の割れ目が主体で、一部で薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。	0 50 100			0 10 20 30 40 50																															
		37				IVg			Vg	γ	36.53~36.82m: 傾斜60~70°の割れ目。低密着割れ目が1~3cm間隔で分布し、コアは岩片状となる。 36.67m: 傾斜50°の割れ目の上端側は幅5~10mmで緑泥石化により淡緑灰色化するが、粘土は伴わない。径0.5mm以下の微細な白雲母や金属鉱物が露出する。 36.82~44.01m: 傾斜40~60°の割れ目を主体とする。一部でこれらに斜交~直交する60~80°の割れ目が分布する。38.34~38.74mでは割れ目沿いに風化で褐色化が進むが、軟質化は伴わない。全体にやや硬質で、一部で硬質部を伴う。粘土化や粘土脈は幅1~2mmの軟質ないし硬質の白色~風化した明黄褐色粘土を伴うが、分布は少ない。	0 50 100																																
		38				Cg IVg				2	37.69m: 傾斜80°の割れ目は、37.77m付近で傾斜45°で幅1mmの石英脈を止めている。割れ目には幅1mm以下の不連続な黄褐色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤は褐色化しているが、原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 38.34~38.41m: 傾斜45°の割れ目が5~30mm間隔で平行に分布し岩片化する。38.38~38.41mでは傾斜40°の割れ目沿いに幅1~2mmの軟質ないし硬質の白色粘土脈を挟み、粘土脈間縁部が淡緑灰色化する。 38.41~38.72m: 傾斜40°の割れ目周辺が風化~褐色化する。	0 50 100																																
		39				Vg				γ	39.53m: 傾斜40°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 39.82m: 傾斜45°で幅5mmの軟質ないし硬質の白色粘土脈を挟む。周縁幅数mmは褐色化が顕著である。	0 50 100																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rpm / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																															
															(N 値 ~ 深度) 図	() 値																																										
41			+								40.61m: 傾斜45°の割れ目の下端側の一部は幅5mmで緑泥石化により淡緑灰色化し、幅2mmの石英脈を伴う。	7 (9)																																														
																														40.87~44.01m: 傾斜40~50°の割れ目がほぼ平行に3~10cm間隔で規則的に分布する。割れ目面は薄く褐色化するのみで砂状化は伴わない。一部で幅1mm以下の軟質粘土脈を挟むが、分布は少ない。	10 (13)																											
41.40m・45°、41.57m・50°の割れ目は、いずれもほぼ直交する傾斜55°の割れ目を止めている。いずれの割れ目にも挟在物は見られず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	12 (12)																																																									
41.50~44.30m: 一部の割れ目と割れ目に近いマングが脈条が見られ、薄く黒褐色化するが、劣化は伴わない。																															13 (13)																											
42.04m: 傾斜58°で幅2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	14 (14)																																																									
42.08m・50°、42.12m・40°の各割れ目に幅2mmの灰白色の硬質な粘土脈、幅2mmのこげ黄褐色の軟質な粘土脈をそれぞれ挟む。																															15 (15)																											
42.19m: 傾斜20°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	16 (16)																																																									
43.08m: 傾斜45°で幅8~10mmが緑泥石化により淡緑灰色化する。粘土化などの劣化は伴わない。																															17 (17)																											
43.14m: 傾斜50°で幅1~2mmの軟質な灰黄色粘土脈を挟む。	18 (18)																																																									
43.60m・60°と43.61m・60°の割れ目に固まれ、径2~5mmに細片~砂状化する。上端側の割れ目の一部に幅1mmの灰黄色の硬質な粘土が付着する。																															19 (19)																											
44.01~44.29m: 軟質化し、割れ目の一部は薄く砂状化する。44.12m及び44.14mの傾斜50°の割れ目に幅2mmで風化し黄褐色を呈する粘土脈を挟む。	20 (20)																																																									
44.29~47.37m: 傾斜40~60°の割れ目が主体で平行に分布する。一部ではこれらに斜交する傾斜60~80°の割れ目も分布する。上記割れ目と同系統の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化したリ、粘土脈を挟むが、いずれも分布は少ない。ただし、46.53~46.60mは変質粘土部で軟質である。																															21 (21)																											
44.49m: 傾斜50°の割れ目は一部珪化と緑泥石化による淡緑灰色化を伴う。また、径0.5mm以下の微細な白雲母が晶出する。	22 (22)																																																									
44.91m: 傾斜52°で幅2~3mmの軟質な明黄褐色粘土を挟む。																															23 (23)																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験 () 図 (N 値 ~ 深度)					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																																																																																						
														0	10	20	30	40											50																																																																																																																																																																																																																																					
46			花崗斑岩	明褐灰			IVg			45.32m: 傾斜55°の割れ目沿いの幅約5mm前後が緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細な白雲母が晶出する。	CL'																																																																																																																																																																																																																																																							
47										Vg																				cg		cg	γ 2	45.57m: 傾斜55°の割れ目は、交差する60°と80°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	46.23m: 傾斜57°で幅5mmの灰白色の硬質な粘土脈を挟む。	46.28m: 傾斜50°の割れ目沿い幅10mmが緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.5~1mmの白雲母が晶出する。	46.53~46.60m: 上端45°で直線的にシャープに連続。下端40°で不明瞭である。径5~10mmの粘土化~硬さ「D」の岩片や長さ10mm、幅5mm前後の粘土化した岩片を多く含むマンガン濃集部である。マンガン鉱染を受け黒褐色化する。細粒部の挟在や含まれる岩片の走向配列は見られない。原岩組織が認められる。全体に明褐色~黒褐色を呈する。幅40mm以上。	46.87~46.92m: 傾斜40~60°の割れ目沿いのマンガン鉱染が著しく、黒褐色化する。	47.20m: 傾斜50°の割れ目に幅0.5mm以下のごく薄い軟質な灰白色粘土が断片的に付着する。	47.37~47.66m: 傾斜50°の直線的にシャープな割れ目が4本平行に分布し、これに斜交~直交する30~80°の不規則に連続する割れ目や低密着割れ目が分布する。これらの割れ目は互いに交差しており、割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	47.52m: 傾斜50°で幅5~6mmの石英脈が母岩に密着するが、脈中央部から割れ目化する。	47.66~48.35m: 傾斜50°前後の割れ目が主体で、上位から連続する70~80°の割れ目がこれらに交差する。	48.11m: 傾斜75°と40°の割れ目が交差し、両割れ目に囲まれた部分は径5mm前後の角礫状を呈する不連続なマンガン濃集部で、軟質である。粘土化は伴わない。	48.35~49.35m: 傾斜30~60°の割れ目が主体で、これらに60~80°割れ目が斜交する。一部の割れ目では薄く砂状化することがある。粘土化部はなく、粘土脈を挟む割れ目はあるが、分布は少ない。	48.39m・50°、48.56m・55°の各割れ目に幅2~5mmの砂状~径5mm前後の細片を挟む。後者はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	48.71m: 傾斜55°で幅1~2mmの軟質な明黄褐色粘土脈を挟む。	49.21m: 傾斜75°の割れ目は、ほぼ直交する傾斜40°の割れ目や珪化した脈に横断される。もしくは、傾斜40°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	49.35~49.93m: 硬さ「D」と硬硬で、一部を除き、割れ目は少なくなり、割れ目に砂や粘土などの挟在物は殆んど分布しない。傾斜50~70°とこれに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。	49.61m: 傾斜75°の割れ目は、その下端側で7本の傾斜10~30°の割れ目を止めている。本割れ目の浅部側は湾曲して連続する。割れ目には挟在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	49.71m: 傾斜50°で幅1~2mmが砂状化する。	49.93~50.76m: 傾斜50~60°の割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に1~3cm間隔で分布する。割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1mm以下の白色軟質粘土が付着する。粘土は脈としてコア全体に連続するものは殆んどない。																																																																																																																																																																																																															
48																																		Bg	bg		bg																																																																																																																																																																																																																													
49																																																														Cg	cg		cg																																																																																																																																																																																																	
																																																																																										Bg	IVg	bg																																																																																																																																																																						
																																																																																																																						Cg	Vg	cg																																																																																																																																										
																																																																																																																																																		Bg	IVg	bg																																																																																																														
																																																																																																																																																																														Cg	Vg	cg																																																																																		
																																																																																																																																																																																																										Bg	IVg	bg																																																						
																																																																																																																																																																																																																																						Cg	Vg	cg																										
			Bg	IVg	bg																																																																																																																																																																																																																																																													
										Cg																				Vg	cg																																																																																																																																																																																																																																			
																																		Bg	IVg	bg																																																																																																																																																																																																																														
																																																														Cg	Vg	cg																																																																																																																																																																																																		

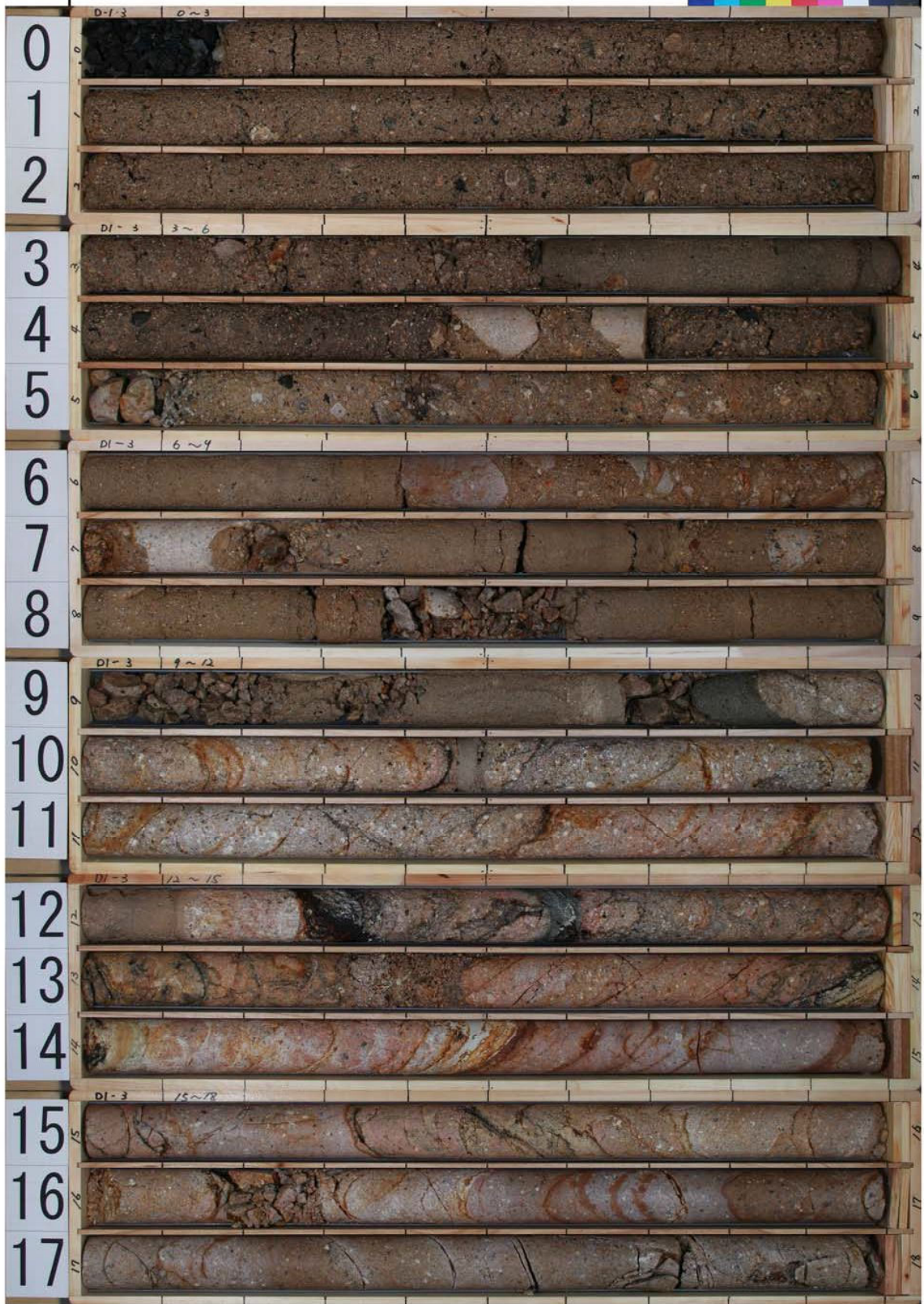
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															0	10	20	30	40												50				
51			花崗斑岩	明褐灰		Cg	Vg	cg	2	γ	50.09~50.47m: 傾斜50~55°の割れ目に幅1~3mmで褐色の砂状化が見られる。	0	CL'																						
		Bg			IVg	bg	50.76~51.24m: 堅硬である。傾斜50~60°の割れ目主体で、50.91mに傾斜55°で幅2mmの風化砂状化部が見られる以外は割れ目の挟在物はない。50.87m: 傾斜45°で幅2~3mmの石英脈を挟む。																												
52								Cg	Vg	cg	3	δ	51.24~52.13m: 硬質な岩片も含むが全体的にはやや硬質主体である。互いに直交する傾斜40~60°の割れ目、低密着割れ目が分布し、一部でこれら両者と交差する傾斜70~80°の割れ目も分布する。割れ目の一部は風化で砂状化したり、幅1~2mmの軟質な明黄褐色の粘土脈が数箇所分布する。	0																					
		Dg			IVg	dg	51.74m: 傾斜40°で幅5mmの軟質な橙色粘土が直線的に連続する。下端割れ幅5~8mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。 51.93~52.13m: やや硬質~やや軟質で径10mm前後に細片化し、岩片間の一部に幅0.5~1mmの軟質粘土が付着する。 ●52.13~52.28m: 破砕部 52.13m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜50°で幅4~5mmの軟質なふい橙色粘土で、径1mm前後の石英粒を含む。																												
53						明褐		Cg	Vg	cg	2	γ	52.13~52.16m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端50°で直線的にシレーブに、下端46°で一部不明瞭で波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの花崗斑岩の岩片を含む。含まれる粘土は灰白色を呈する。全体は灰褐色を呈する。幅5~20mmと膨縮する。	0																					
		Dg			Vg		dg	52.16~52.28m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端46°、下端60°でともに一部不明瞭で波打って連続。径5~10mmの粘土化~硬さ「D」ないし「E」の岩片が主体で、岩片間を軟質な灰白色粘土脈が網状に分布する。52.20m以降では、マンガンの浸染で黒褐色化部が多いため、粘土の存在が不明な区間がある。明褐灰~黒褐色を呈する。																											
54							灰褐		Dg	Vg	dg	3	δ	52.28~52.51m: 径5~30mmの硬さ「D」ないし「C」の角稜と硬質な砂状の基質からなる割れ目密集部で岩片化する。割れ目にマンガンの浸染が認められる。基質の一部に灰白色の軟質粘土が付着することがあるが、ごくわずかである。原岩組織が明瞭に認められ、角稜の移動や回転は見られない。	0																				
		Dg			Vg			cg	52.51m: 傾斜48°の割れ目の上端割れ幅15~20mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。 52.51~52.60m: 上端48°、下端58°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。粘土化は殆んど伴わない。 52.60~52.85m: 径10~30mmの硬さ「C」ないし「D」の岩片からなる割れ目密集部で岩片化する。上位に比べ砂状の基質は殆んど分布しない。粘土化はないが、岩片の一部は砂状化する。原岩組織が明瞭に認められ、角稜の移動や回転は見られない。 52.72m: 傾斜45°の割れ目は多数の交差する割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																										
								Bg	IVg	bg	2	γ	52.85~52.93m: 上下端45°の割れ目で囲まれ、全体が著しく軟質化する。一部は硬さ「D」が残留する。傾斜45~60°の連続性が乏しく短い低密着割れ目の一部に幅1~4mmの白~ふい橙色の軟質粘土が付着する。 52.93~53.29m: 傾斜40~50°と70~75°の割れ目と低密着割れ目が分布する。割れ目沿いの一部は薄く砂状化する。 53.29~53.50m: 互いに交差する傾斜50~70°の割れ目や低密着割れ目が分布する。割れ目の一部には幅1mm前後の灰白~風化による黄褐色の軟質粘土が付着する。岩片は硬さ「C」~「D」である。 53.50~53.62m: 著しく軟質化し、灰白色の軟質粘土脈が幅1~3mmで網状に分布する。 53.62~54.20m: 傾斜40~50°の割れ目がほぼ平行に分布する。割れ目に粘土脈は挟まれないが、一部で薄く砂状化~径2~3mmの礫状化部を挟む。礫に定向配列は見られない。 54.20m: 傾斜45°で幅3~6mmの粘土~シルト質の砂~礫を挟む。 54.20~55.18m: 互いにほぼ直交する傾斜50~60°の割れ目が主体で、54.83mの傾斜50°の割れ目が幅2mmが風化で砂状化する以外は割れ目に砂状化部や粘土脈を挟まない。比較的割れ目は少ない。																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準入 () 試験 () 図		原位置試験 (孔内水平距離)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・rmp)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
														(N 値)	(深度)																
							Bg IVg bg γ			55.18~56.71m: 傾斜40~60°の割れ目とこれらに斜交~直交する傾斜40~60°の割れ目が主体で、55.53m以上では風化で割れ目沿いが砂状化することが多いが、以深では砂状化は少なくなる。粘土脈は分布しない。55.49m・55°と55.53m・48°の両割れ目に囲まれた部分は緑泥石化により淡緑灰色化し、各割れ目沿いに幅1mmが風化で褐色化した砂を挟む。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟質粘土も付着する。	0 50 100	GM																			
56				花崗斑岩			Cg Vg cg			56.49m・15°及び56.59m・55°の割れ目は、いずれも交差する割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。																					
57				明褐色			Dg			56.71~56.88m: 傾斜40~60°の割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目には幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を挟むことが多い。																					
							Eg VIg dg			56.71m: 傾斜45°で幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟み、緑泥石化により暗緑色化する。また、径0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く晶出する。																					
58							Dg Vg cg			●56.88~57.24m: 破砕部 56.88~57.15m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端40°で直線的にシャープに、下端58°で波打って連続。径5~20mmの粘土化~硬さ「D」の岩片からなり、岩片間を幅1~2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布する。明褐色~白色を呈する。																					
							Eg VIg dg			57.15~57.20m: 硬質粘土状部(Hb) 上端58°で波打って、下端60°でやや波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5~30mmの粘土化した花崗斑岩の礫を多く含む。やや軟質。明褐色~オリープ灰~灰白色で織状を呈する。幅20~28mm。																					
							Eg VIg dg			57.20m: 粘土状部(Hc-1) 上端60°でやや波打って、下端60°で直線的にシャープに連続。軟質でにふい黄橙色を呈する。幅2~8mm。																					
							Cg			57.20~57.24m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端60°で直線的にシャープに、下端60°で一部不明瞭に連続。径5mm前後の粘土化~硬さ「D」の花崗斑岩の岩片からなり、岩片間を幅0.5~1mmの軟質な灰白色の粘土脈が網状に分布する。明褐色を呈する。幅25mm。																					
59							Vg			57.24~58.03m: 傾斜40~60°の割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目は一部砂状化し、幅0.5~1mmの軟質な灰白色粘土脈も一部に挟まれる。																					
							Bg			57.90~57.94m: 傾斜40°の割れ目沿いに砂状化が進み、上端側の割れ目沿いはマンガン鉱染で黒褐色化する。58.00m: 傾斜60°で幅0~10mmのマンガン濃集部を伴う。割れ目に沿って階段状に分布する。																					
							Cg			58.03~58.29m: 互いに交差する傾斜50~60°の割れ目と一部で同角程度の低密着割れ目が分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化する。																					
										58.29~58.53m: 径5~30mmの硬さ「C」岩片と硬質砂状の基質からなる角礫状部で、58.33mの傾斜40°の割れ目に幅0.5~3mmの軟質灰赤色粘土脈を不連続に伴う。角礫状部には原岩組織が認められ、含まれる際に移動や回転は見られない。																					
										58.40~58.46m: 一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。																					
										58.53~60.00m: 互いに交差する傾斜30~70°の割れ目。低密着割れ目が主体で、58.66~58.71mは砂状化と変質が進んで著しく軟質化している。58.91~59.90m間は割れ目が多いが、割れ目に挟在物は殆んどない。																					
										59.46m: 傾斜45°の割れ目沿いに幅5~10mmが緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.5mm以下の微細な白雲母を伴う。粘土化部や粘土脈は挟まない。																					
										59.90~60.00m: 割れ目沿いに風化がやや進み、薄く砂状化するものがある。																					

孔番 D1-3 孔

深度 0.00m ~18.00m

孔口標高 6.90m



孔番 D1-3 孔

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 6.90m



孔番 D1-3 孔

深度 36.00m ~ 54.00m

孔口標高 6.90m



孔番 D1-3 孔

深度 54.00m ~ 60.00m

孔口標高 6.90m



余白

H24-D1-2

余白